

令和2年度

「アドベンチャートラベルガイドの質的・量的改善に関する実証事業」

報告書  
＜概要版＞

## 目次

### 【1】事業の概要

1-1 事業目的	3
1-2 事業実施における指針	4
1-3 業務の全体構成	5
1-4 新型コロナウイルス感染拡大防止のために施した内容	6

### 【2】実施内容

2-1 関係者への情報提供および類似事業調査	7
2-2 地域ごとのAT機運の醸成	7
2-3 地域ごとのネットワーキングイベントの開催	9
2-4 地域ごとのAT機運の醸成 冬のモニターツアー	14
2-5 アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催	19

### 【3】事業まとめ

3-1 アンケート結果に基づく事業成果ー量的改善(非ガイド層の態度変容)ー	33
3-2 アンケート結果に基づく事業成果ーガイドの質的改善ー	33
3-3 事業総括	34

# 【1】事業の概要

## 1-1.事業目的(事業仕様書より引用)

北海道は、人の暮らしと豊かな自然が近接しているためアクティビティを楽しむフィールドにアクセスしやすく、加えて独自のアイヌ文化も存在するため、欧米を中心に急速に発展しているアドベンチャートラベル(自然、アクティビティ、異文化交流の3要素のうち少なくとも2つの要素を含む旅行形態を指す。以下、「AT」という。)市場において、世界有数のデスティネーションとなる大きな可能性がある。

北海道運輸局は、北海道経済産業局、北海道庁、北海道観光振興機構、札幌市、釧路市と連携しながら、世界的なATのサミット(Adventure Travel World Summit。以下、「ATWS」という。)を北海道に誘致し、2021年の開催が決まったところである。

ATWSの開催に際して、主催者であるAdventure Travel Trade Associationからは、北海道で楽しめるコンテンツの更なる充実が必要であると指摘されているところ、2019年度においては、「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業」においてATコンテンツを造成したところである。

このように造成したコンテンツを商品として持続的に販売していくためには、ガイドの存在が不可欠である。全世界で拡大していくAT市場に着実に対応するためには、ATガイドを質的にも量的にもこれまで以上に充実させていく必要がある。

ガイドを質的に充実させるためには、既にATガイドを行っている者のガイドスキルの向上が求められる。実際にガイド等のAT関係者から「それぞれの地域でどんな商品を販売しているのかを知らない。互いに共有することでガイドの水準が向上する」などの声があがっている。

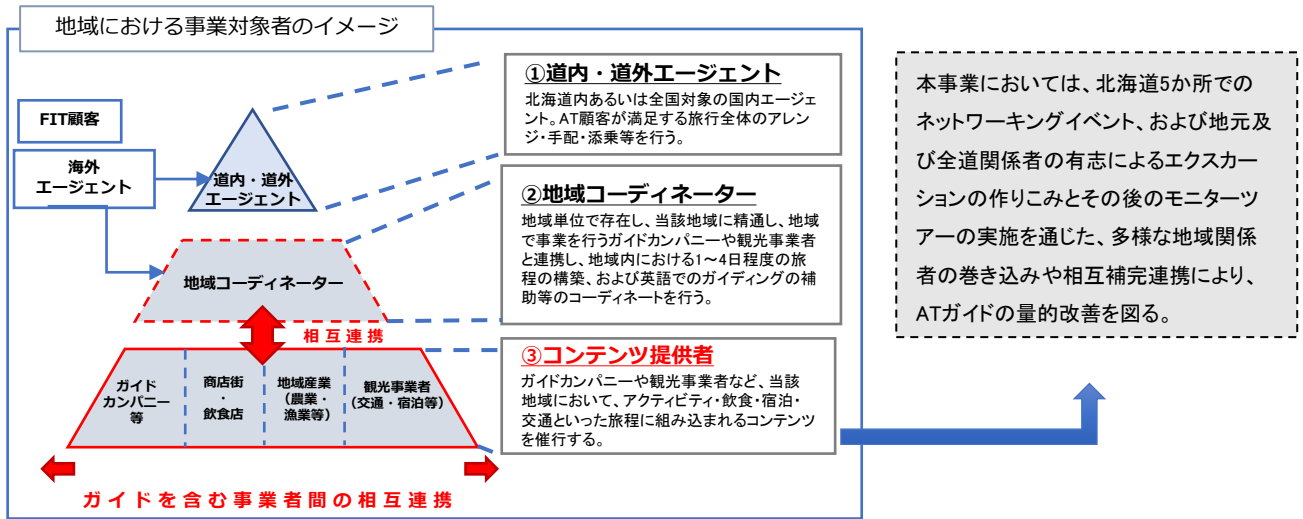
さらに、顧客目線でガイドを質的に充実させるには、AT関係者間の連携が必要である。実際にAT関係者から「ガイドは他のガイドやホテル等との交流が少なく、客から自分が取り扱っていない分野について問われた場合に対応ができない」などの声があがっている。

また、ガイドを量的に充実させるためには、これまでガイドを行ってこなかった層も巻き込んでいくことが解決策の一つと考えられる。実際にAT関係者から「地域には観光に携わっていないが、地域の魅力を作っている人(漁師等)がいる。このような人たちとともにAT旅行を組み立てていきたい」などの声があがっている。

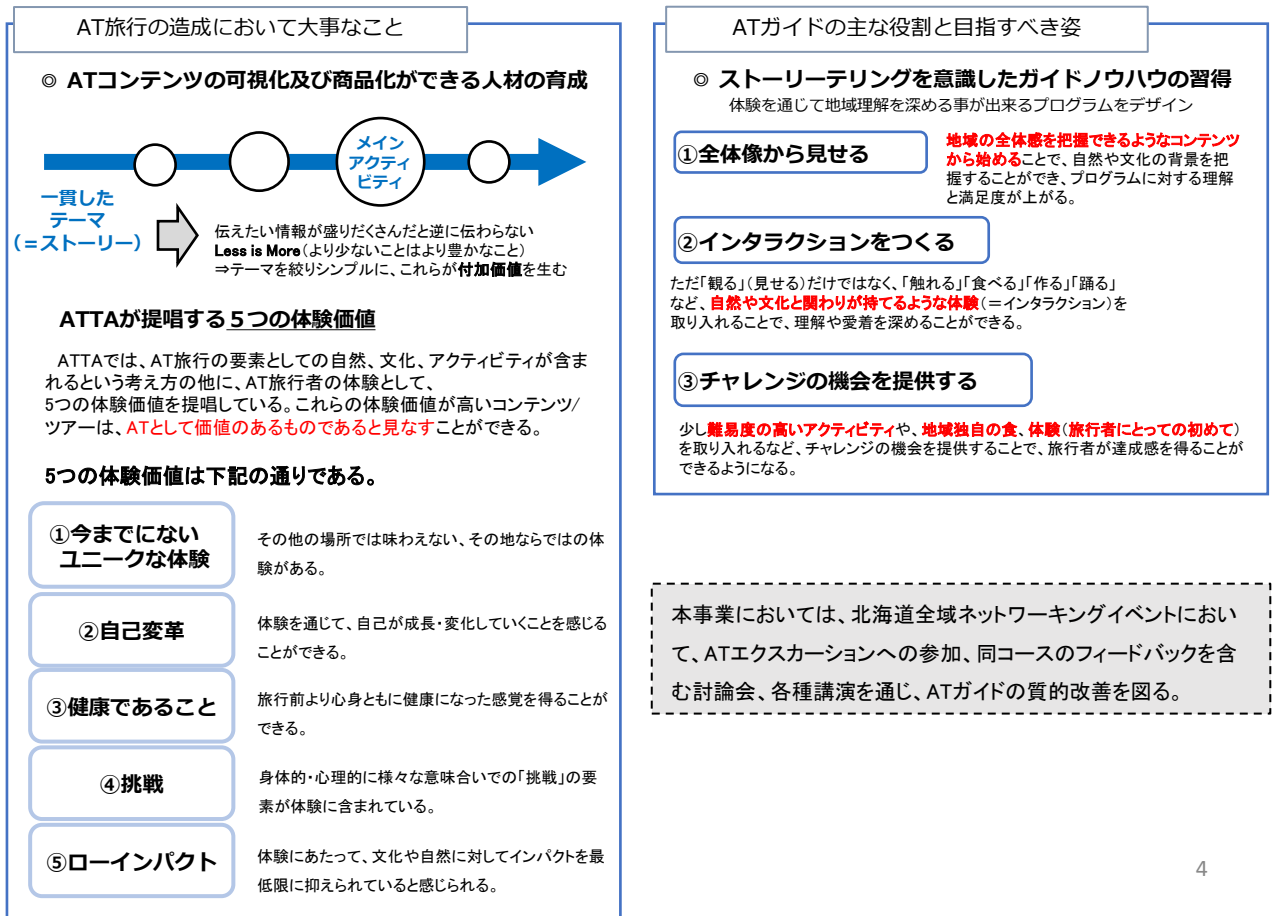
そこで、AT関係者の横のつながりを形成するネットワーキングイベントを実施することで、AT関係者間の連携を深め、より顧客のニーズを満たすサービスを提供するとともに、漁師等のガイド非従事者をガイドとして活用する可能性を模索する。

## 1-2. 事業実施における指針

### ① 課題1 ATガイドの量的改善 ATガイド間の連携を深めるとともに、多様な地域関係者の巻き込みを図る。



### ② 課題2 ATガイドの質的改善 以下2点を指針にATガイドの質的改善を図る。



## 1-3. 業務の全体構成

### (1) 関係者への情報共有及び類似事業調査

- ・道内各地域の自治体、観光協会、民間事業者、DMO等、地域の関係する機関との調整及び情報共有。
- ・類似事業を調査し、資料作成。

### (2) 地域ごとのAT機運の醸成

- ・道内の各地域でAT関係者のネットワーク形成に資するイベントを開催。
- ・ATの先進事例や持続可能な観光に関する情報提供の実施。
- ・実践的な商品づくりを見据え、DMOやATコーディネーターを中心に、ATガイド、ホテル、交通事業者等が互いの情報を交換できる場とする。
- ・各開催エリアで、エクスカージョンの造成検討、地元関係者等によるエクスカージョンのモニタリング、エクスカージョン映像の撮影等を通じて、地域におけるAT機運を醸成する。

(事業骨子)

地域ごとのネットワーキングイベント(北海道アドベンチャートラベルミーティング)の開催

- ① 外国人等によるATエクスカージョンのPR映像の撮影
- ② 北海道アドベンチャートラベルミーティングの開催と動員  
全5会場:白老町、弟子屈町、ニセコ町、旭川市、帯広市
- ③ エリアごとの日帰りエクスカージョン(各エリアで2本)の作り込み
- ④ 地元及び全道関係者の有志によるATエクスカージョンのモニタリング・検証  
※当初、「地元及び全道関係者の有志によるATエクスカージョンのモニタリング」を、夏秋に企画していたが、北海道アドベンチャートラベルミーティングの参加者から出た意見をエクスカージョンに反映した方が、より各エリアのイベント参加者の機運醸成、およびATへの理解促進を図ることができるかと判断し、1月～2月にかけて開催に変更した。

### (3) 北海道全域ネットワークイベントの開催

- ・北海道のAT関係者を一堂に会したネットワーキングイベントを開催。
- ・エクスカージョン、商談会、懇親会、セミナー、総会等により構成。
- ・エクスカージョンの参加者は、ガイドに対しフィードバックを行い、互いの知見を共有する。

(事業骨子)

北海道全域ネットワーキングイベント(アドベンチャートラベル北海道ミーティング)の開催

- ① 札幌近郊での日帰りATエクスカージョン(10～20人規模のDOA5本程度)の作り込み
- ② アドベンチャートラベル北海道ミーティングの企画・運営
  - ②-1 1日目 :日帰りATエクスカージョンの運営
  - ②-2 2日目朝 :<HATA総会>の開催
  - ②-3 2日目午前 :<AT討論会>の開催  
ATWS2021に向けての機運醸成討論会
  - ②-4 2日目午後 :<AT普及セミナー>の開催  
セミナー6本、ネットワーキングスペースの運営

## 1-4.新型コロナウイルス感染拡大防止のために施した内容

### ■基本取組内容

- 1 参加者や関係者の検温・マスクの着用・手指の消毒
- 2 参加者管理の徹底
- 3 ソーシャルディスタンスの確保

### ■セミナーにおける取組内容

- 1 アルコール消毒液の設置
- 2 館内消毒・換気・広めの席配置
- 3 運営関係者の検温・マスク、フェイスシールドの着用の徹底・手指の消毒
- 4 ご来場者の検温・マスクの着用・手指の消毒
- 5 入場管理の徹底

全参加者(出展者・来場者・その他関係者等)の氏名、連絡先を把握し、必要な際は保健所への連絡に使用する。

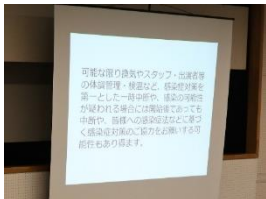
- 6 ソーシャルディスタンスの確保

会場におけるレイアウト調整(密を避けるレイアウト)

### 【会場の様子】



スタッフのフェイスシールド装着、手指の消毒呼びかけ、検温を行った。



開始前の参加者への呼びかけをおこなった。



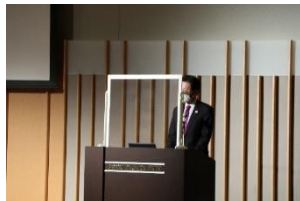
発言者は自席からではなく、登壇し発言。マイクの消毒を行った。



【アドベンチャートラベル北海道】  
受付窓口には飛散防止パネルを設置した。



【アドベンチャートラベル北海道】  
机の間隔を広く設置し、席配置も一人分けるなど行った。



【アドベンチャートラベル北海道】  
演台にも飛散防止パネルを設置し、マスクの着用を行った。

### 【実施前の参加者へメール】

なお、まだ新型コロナウイルスの収束が見えない中、ご出席にあたりご心配な面もあろうと拝察しておりますが、当日は十分な予防対策を行っていただきます。

当日会場では、以下の対策を徹底いたします。

- 1 アルコール消毒液の設置
- 2 館内消毒・換気・広めの席配置
- 3 運営関係者の検温・マスク、フェイスシールドの着用の徹底・手指の消毒
- 4 ご来場者の検温・マスクの着用・手指の消毒
- 5 入場管理の徹底

参加者(出展者・来場者・その他関係者等)の氏名、連絡先を把握し、必要な際は保健所への連絡に使用する。  
講演者等本人のケアに努めるの設置、セミナー会場におけるレイアウト調整(密を避けるレイアウト)、スタッフ配置調整(受付等)へのアルコール消毒液の設置およびマスク着用

また、イベント開催にあたり、ご来場者へご協力をお願いいたします。

- 来場前、自宅等で検温の実施をお願いします。
- 入場時に検温と消毒、マスクの着用のご協力をお願いします。
- 施設内物品は手触れが少なく、できる限り触れないようにお願いします。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)をご利用いただき、当日までには開催者との接触履歴がないことを確認してください。
- イベント中の大きな声での会話はお控えください。お願いします。
- ごみの持ち帰りのご協力をお願いします。
- イベント前後のミーティングや懇話会等における「三つの指」の回避をお願いします。
- その他、感染防止のために主催者が決めた措置や主催者指図の遵守をお願いします。
- お手洗いや消毒液の用意のため、休憩時、履物に入室していただく場合がございます。ご協力をお願いします。

○以下に該当する方のご来場はご断念いたします。

- 会場内でマスクの着用をいただけない方
- また、途中でお立ち上がりもご断念、ご協力いただけます。
- 37.5℃以上の発熱、倦怠感・息苦しさ・咳・喉痛など、風邪と疑われる症状がある方
- 上記に該当せず、体調の優れない方
- ご家族やお客先、学校など、ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃる方。
- 入場直前まで入場制限の対象となつておられる地域から、日本への入国後14日間経過していない方
- ※ご参考：水際対策の抜本的強化に関するQ&A(厚生労働省)
- 新型コロナウイルス感染症の罹患と判明した方のイベント参加日の14日以内に濃厚接触がある方
- 保健所等の濃厚接触下にある方

皆様にはご不便をおかけいたしますが、感染拡大防止に何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

### 【実施前の参加者へメール】

明日開催【水】のユースカーションは、感染予防対策を行ったうえで、実施予定でございます。

つきましては、厚意にてのご理解にもより御入りいただけますが、一部の新型コロナウイルス感染症発生防止に関する事項へのご協力をお願いいたします。

当日会場では、以下の対策を徹底いたします。

- 1 アルコール消毒液の設置
  - 2 消毒・換気・広めの席配置
  - 3 運営関係者の検温・マスクの着用の徹底・手指の消毒
  - 4 参加者の検温・マスクの着用・手指の消毒
  - 5 参加者管理の徹底
- 事前に参加者の氏名、連絡先を把握してあります。

6 ソーシャルディスタンスの確保

また、イベント開催にあたり、参加者へご協力をお願いいたします。

- 来場前、自宅等で検温の実施をお願いします。
- 施設内物品の消毒、行商時の安心のための商品ご協力をお願いします。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)をご利用ください。
- 当日来場で同居者以外の接触履歴がないことを確認してください。
- ツアー中の大きな声での会話はお控えください。お願いします。
- イベント前後のミーティングや懇話会等における「三つの指」の回避をお願いします。
- その他、感染防止のために主催者が決めた措置や主催者指図の遵守をお願いします。
- お手洗いや消毒液の用意のため、休憩時、履物に入室していただく場合がございます。ご協力をお願いします。

○以下に該当する方のみ「参加はご断念いたします。

- マスクの着用をいただけない方
- 37.5℃以上の発熱、倦怠感・息苦しさ・咳・喉痛など、風邪と疑われる症状がある方
- 上記に該当せず、体調の優れない方
- ご家族やお客先、学校など、ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃる方。
- 入国直前、入国制限の対象となつておられる地域から、日本への入国後14日間経過していない方
- ※ご参考：水際対策の抜本的強化に関するQ&A(厚生労働省)
- コロナウイルス感染症の罹患と判明した方のイベント参加日の14日以内に濃厚接触がある方
- 保健所等の濃厚接触下にある方

### ■モニターツアー及びエクスカーションにおける実施内容

(一社)全国旅行業協会および、(株)北海道宝島旅行社におけるコロナウィルス感染拡大防止のための指針を基本とし、基本取組内容の徹底を行った。

#### ・旅行開始前日

参加者への感染症拡大防止の呼びかけメール

#### ・旅行開始当日

検温・アンケートの実施

手指消毒の呼びかけ

ソーシャルディスタンスの確保

マスク着用の徹底

食事場所での大声での会話を控えるよう呼びかけ

## 【2】実施内容

### 2-1. 関係者への情報提供および類似事業調査

アドベンチャートラベルガイド(以下、ATガイド)やアドベンチャートラベル推進に係る事業について、過去に類似の調査がないかの調査をWEBサイトより実施し本事業と関連性が高い下記2点を活用する。

①平成31年度「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業に係る調査」業務(アドベンチャートラベルの推進に係るガイド育成に関する実証事業) ……国土交通省北海道運輸局

②令和元年度「訪日外国人旅行者周遊促進事業(基礎調査)」アドベンチャートラベルガイド繁閑格差解消に向けた調査事業……国土交通省北海道運輸局

- ・ガイド事業者は地域内の連携を深め、幅広い体験やアクティビティを提供したいと思っている。そうすることで地域の人々と相互誘客を図ることができ、地域の経済に貢献することができる。  
→質の高い体験を顧客へ提供するためには地域内のネットワークづくりが重要である。
- ・いきなり「専門」での入職者は少なく、アウトドアアクティビティに興味関心がある方であればだれでもガイドになりえる。  
→豊富な人生経験が質の高い体験提供に繋がることから、継続的なスキルアップや幅広い知識の習得は重要である。

ネットワーキングイベントや各種エクスカーションの実施を通し、上記ポイントでも挙げられている地域内の相互連携や新たな知識を得られるよう、企画運営を行う。

### 2-2. 地域ごとのAT機運の醸成

#### (1)目的

「非ガイド層」「ATを掴み切れていないガイド層」へのATへの理解促進と地域機運の醸成のため、地域の有志やガイド、非ガイド層を巻き込んだエクスカーションを造成した。また、その様子を撮影し、地域の関係者へATの普及啓発のための動画を制作した。

#### (2)概要

ATエクスカーションの動画を撮影するにあたり、その撮影内容および地域の選定については、その地域ならではのストーリーとコンテンツが撮影可能な地域イベント開催地周辺のコースとした。

#### (3)制作内容一覧

	上映会場	撮影エリア名	メインアクティビティ	テーマ
1	白老	白老・登別	アイヌ文化体験/泉源トレッキング	白老アイヌ文化と支笏洞爺国立公園内の登別温泉源泉巡り
2	白老	洞爺湖有珠山周辺	カヌー/ジオパークガイドツアー	変動する大地との共生
3	倶知安	ニセコ・倶知安	トレッキング/ダッキー	山と川の繋がりを体感
4	倶知安	岩宇	文化体験/漁船クルーズ/カヤック	農山漁村交流
5	弟子屈	弟子屈・釧路	カヌー/ウォーキング/農山漁村交流	釧路川の上流と下流の繋がりを水産資源が豊富な理由をアドベンチャーで体感
6	弟子屈	網走・小清水・斜里	畑でサイクリング/農家食事/知床連山背景	人里から未開拓の地 世界自然遺産・知床を目指す
7	旭川	愛別・東川	田んぼサイクリング/稲わらクラフト	大雪山の恵みと暮らす
8	旭川	美瑛	トレッキング/フットパス	火山によってもたらされた一大農業地帯 十勝岳ジオパーク
9	帯広	鹿追	カヌー/フィッシング/ハイキング	大雪山国立公園唯一の自然湖を山と湖の両方から体感
10	帯広	帯広周辺	農村交流	人と馬と土地のストーリー
11	全会場	全道	上記の総集編	上記の総集編

## 2-2. 地域ごとのAT機運の醸成

【(一例として)美瑛】

<p>■エクスカージョン名：丘の街・美瑛町で農業と火山のかかわりに触れる旅</p>	
<p>■ストーリー：美瑛町とその近郊の地域に住む人々は、度重なる十勝岳の噴火により被害を受けつつも、先祖が開拓した土地とその独特な丘の上に広がる牧歌的な畑作風景を守りながら生活を営んでいる。その独特な地形をガイド同行で巡りながら体感する。</p>	
<p>■選定のポイント：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スルーガイドがしっかりと存在し、ストーリーを語ることができる。</li> <li>・火山とともに暮らしてきた人々の営みを知ることができる。</li> <li>・一次産業とアクティビティがわかりやすくストーリーで繋がっているツアーである。</li> </ul>	
<p>■撮影日：令和2年7月14日(火)15日(水)</p>	
<p>■ガイド：</p> <p>【スルーガイド】 丘のまちびえいDMO 小倉博昭氏</p> <p>【地域の人・スポット】 丘のまち郷土学館・美宙 桜間祐紀氏 畑DEフットパス 大波農園 大波太郎氏</p>	<p>■アクティビティ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング</li> </ul>

エクスカージョン造成にあたり、5つの体験価値を意識し、コース造成を行った。映像においてもそれらが現れるよう編集を実施した。

キャプチャ	映像意図	5つの体験価値
	<p><b>郷土資料館のゲートウェイプログラム</b> 丘のまちと言われる美瑛の所以について、郷土資料館でレクチャー。</p>	<p>ユニークな体験 自己変革 ローインパクト</p>
	<p><b>畑DEフットパス</b> 火山の影響でできた畑に適した土と、丘陵風景をフットパスを歩きながら体感する。</p>	<p>健康 自己変革 ローインパクト</p>
	<p><b>美瑛神社参拝</b></p>	<p>ユニークな体験</p>
	<p><b>十勝岳安政火口トレッキング</b> 美瑛を丘のまちにした十勝岳に登る。今なお噴煙や温かさを感じる安政火口に訪れる。</p>	<p>挑戦 ユニークな体験 自己変革 ローインパクト</p>
 	<p><b>火山の様子と畑の様子の対比</b> どちらも火山の影響でできた風景の対比。</p>	<p>ユニークな体験 自己変革</p>



## 2-3. 地域ごとのネットワーキングイベントの開催

### 2-3-1 目的

これまで観光に携わっていない「非ガイド層」を中心としたネットワークの形成と、「ATを掴み切れていないガイド層」のATへの理解促進、および地域機運の醸成を目的として開催した。

### 2-3-2 実施概要

開催場所の選定にあたっては、全道各地からの参加が比較的容易であり、かつATの実践者や、農家・漁家などの非ガイドかつ潜在的に興味関心がありそうな層が多いと思われる5地域を選定した結果、下記5か所となった。また各会場の講師については、全道のAT実践者を選定し、参加者に他のエリアの実践例を学ぶことができるよう、その講師が普段事業エリアとして設定していないエリアの会場での講演を依頼した。

会場名	日時	開催場所	講師	参加者数(現地+オンライン)
白老会場	令和2年 10月6日(火)	白老コミュニティセンター	北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井 一洋 氏	69名
弟子屈会場	令和2年 10月8日(木)	釧路圏摩周文化センター	北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井 一洋 氏	64名
ニセコ会場	令和2年 10月13日(火)	ニセコ中央倉庫群	通訳案内士/英語自然ガイド 馬上 千恵 氏	57名
旭川会場	令和2年 10月15日(木)	旭川商工会議所	鶴雅リゾート株式会社取締役 アドベンチャー事業部部长 高田 茂 氏	71名
帯広会場	令和2年 10月22日(木)	北海道新聞帯広支社	一般社団法人黒松内町観光協会 事務局長 本間 崇文 氏	56名

ATの実践事例や持続可能な観光に関する情報提供、及び実践的なモデルプランづくりを見据え、互いの情報を交換できる場として機能させるべく、実践例としての前述の動画撮影、実践者の講演、理解促進のためのワークショップの3本立てとし、企画・運営を行った。

実施内容としては、下記の内容を基本にイベントを組み立てた。

#### ①ATの基礎知識

※白老会場、弟子屈会場は荒井氏に講演と共にお話いただく。

- ②AT実践者の講演(ATを身近に感じてもらえるような事例紹介)
- ③ATの取り組みに関する情報提供や、地域モデルプランの映像上映
- ④ATのモデルプラン作成に関するワークショップ

### 【ワークショップで利用したもの】

#### ①事前課題

**アドベンチャーミーティング 事前ワークシート**

【問い①】 「自然」「文化」「身体的アクティビティ」のいずれかまたは複数に  
関係するもので、あなたの地域で又々楽しみたいものは何ですか？

【問い②】 これを選んだ理由は何ですか？

※本課題は、ATプラン作成の準備として、事前に各参加者に配布し、ワークショップ当日に提出していただく。  
(配布・提出は、各会場にて行われます。)

#### ②当日 ワークシート(個人)

**ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>**

1. 目的  
目的明確化(目的)をATプランに反映し、各参加者が各自一歩ずつのATプランを作成し、発表・共有する。

2. 参加者  
各参加者

3. 開催日時  
開催日時

4. 開催場所  
開催場所

5. 開催形式  
開催形式

6. 開催費用  
開催費用

7. 開催趣意  
開催趣意

8. 開催効果  
開催効果

9. 開催評価  
開催評価

10. 開催報告  
開催報告

11. 開催記録  
開催記録

12. 開催振り返り  
開催振り返り

13. 開催感想  
開催感想

14. 開催気づき  
開催気づき

15. 開催学び  
開催学び

16. 開催行動  
開催行動

17. 開催未来  
開催未来

18. 開催希望  
開催希望

19. 開催課題  
開催課題

20. 開催課題解決  
開催課題解決

21. 開催課題解決  
開催課題解決

22. 開催課題解決  
開催課題解決

23. 開催課題解決  
開催課題解決

24. 開催課題解決  
開催課題解決

25. 開催課題解決  
開催課題解決

26. 開催課題解決  
開催課題解決

27. 開催課題解決  
開催課題解決

28. 開催課題解決  
開催課題解決

29. 開催課題解決  
開催課題解決

30. 開催課題解決  
開催課題解決

**ATプラン商品造成ワークシート<枠組み>**

1. 目的  
目的明確化(目的)をATプランに反映し、各参加者が各自一歩ずつのATプランを作成し、発表・共有する。

2. 参加者  
各参加者

3. 開催日時  
開催日時

4. 開催場所  
開催場所

5. 開催形式  
開催形式

6. 開催費用  
開催費用

7. 開催趣意  
開催趣意

8. 開催効果  
開催効果

9. 開催評価  
開催評価

10. 開催報告  
開催報告

11. 開催記録  
開催記録

12. 開催振り返り  
開催振り返り

13. 開催感想  
開催感想

14. 開催気づき  
開催気づき

15. 開催学び  
開催学び

16. 開催行動  
開催行動

17. 開催未来  
開催未来

18. 開催希望  
開催希望

19. 開催課題  
開催課題

20. 開催課題解決  
開催課題解決

21. 開催課題解決  
開催課題解決

22. 開催課題解決  
開催課題解決

23. 開催課題解決  
開催課題解決

24. 開催課題解決  
開催課題解決

25. 開催課題解決  
開催課題解決

26. 開催課題解決  
開催課題解決

27. 開催課題解決  
開催課題解決

28. 開催課題解決  
開催課題解決

29. 開催課題解決  
開催課題解決

30. 開催課題解決  
開催課題解決

#### ③当日 ワークシート(グループワーク)

**ATプラン商品造成ワークシート**

1. 目的  
目的明確化(目的)をATプランに反映し、各参加者が各自一歩ずつのATプランを作成し、発表・共有する。

2. 参加者  
各参加者

3. 開催日時  
開催日時

4. 開催場所  
開催場所

5. 開催形式  
開催形式

6. 開催費用  
開催費用

7. 開催趣意  
開催趣意

8. 開催効果  
開催効果

9. 開催評価  
開催評価

10. 開催報告  
開催報告

11. 開催記録  
開催記録

12. 開催振り返り  
開催振り返り

13. 開催感想  
開催感想

14. 開催気づき  
開催気づき

15. 開催学び  
開催学び

16. 開催行動  
開催行動

17. 開催未来  
開催未来

18. 開催希望  
開催希望

19. 開催課題  
開催課題

20. 開催課題解決  
開催課題解決

21. 開催課題解決  
開催課題解決

22. 開催課題解決  
開催課題解決

23. 開催課題解決  
開催課題解決

24. 開催課題解決  
開催課題解決

25. 開催課題解決  
開催課題解決

26. 開催課題解決  
開催課題解決

27. 開催課題解決  
開催課題解決

28. 開催課題解決  
開催課題解決

29. 開催課題解決  
開催課題解決

30. 開催課題解決  
開催課題解決

参加者の募集方法としては、北海道運輸局からの各行政や観光協会、DMOなどへの告知文のメール配布の他、これまでに観光による地域づくりや体験型観光に携わってきた地域関係者へのメールや電話、対面での案内を行った。

## 2-3.地域ごとのネットワーキングイベントの開催

### 2-3-3 講師略歴

#### ◆白老会場 ・ 弟子屈会場



北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA) 会長 荒井一洋氏

1977年生まれ。北海道東川町に移住し、2001年に「大雪山自然学校」を設立し、2015年にNPO法人化。エコツアーや大雪山国立公園・旭岳エリアの自然保護対策事業を行い、「利用者による環境保全の仕組みづくり」に取り組む。

#### ◆ニセコ会場



通訳案内士／英語自然ガイド 馬上千恵氏

福島県いわき市出身、札幌市在住。全国、全道で観業向けの『おもてなし英会話セミナー』を行い、森林インストラクターの経験を生かした「森林講座」や、英語講師&英語ガイドの養成講座など、「英語×接客×観光」が織りなすユニークな講座を展開している。

#### ◆旭川会場



鶴雅リゾート株式会社取締役アドベンチャー事業部 部長 高田茂氏

1951年生まれ。鶴雅リゾート海外事業部部長。あかん湖鶴雅アドベンチャーベースSIRIの事業部長でもあり、ガイドとしても活躍している。地元のフィールドを知り尽くしたフィッシングガイドの第一人者。

#### ◆帯広会場



一般社団法人黒松内町観光協会 事務局長 本間崇文氏

小樽市出身、北海道黒松内町在住。2011年に黒松内町に移住し、黒松内町観光協会を社団法人化。現在は黒松内町観光協会会長として移住促進や観光資源の開発に取り組む。

### 2-3-4 イベントの実施・運営

#### ①イベントの様子(白老会場)



荒井一洋氏による講演を実施。ATの基礎および、実践例を説明頂いた。



ワークショップ中の様子



チームごとに発表後、講師らより講評

2-3-5 イベントの実施・運営

②ワークショップと成果

	白老会場	弟子屈会場	ニセコ会場	旭川会場	帯広会場
1.ターゲット	アドベンチャートラベラー	アドベンチャートラベラー	アドベンチャートラベラー	アドベンチャートラベラー(ジオツアーに興味を持つ顧客がいる旅行会社)	アドベンチャートラベラー
2.コンセプト	この地域ならではの食と交流を楽しむ。	流水オホーツク海から太平洋へ(2月)	日本の食、米どころを支える 蘭越を知るツアー	半日で生きている火山が見れる	十勝の大地を流れる水と人の暮らし 冬:山を渡る歴史 絶景
3.コンセプトを体感できるメインアクティビティ	・白老町 アイヌ文化 ・地産地消の食 ・火山の恵み ・洞爺湖国立公園	阿寒湖から屈斜路湖までの外輪山トレイル (道東ならではの冬の美しさを体感)	・トレッキング、カヤック・農業体験、収穫、料理体験(おにぎり、お味噌汁)	十勝岳火山トレッキング 生きている火山を間近に見る 日本一早い紅葉を見る エゾナキウサギの鳴き声が聞ける	夏:川を下る 冬:冬山を堪能
4.ストーリーを含んだ旅程	①白老アイヌ文化(ウポボイ、地域の人との食) 1泊目:白老 ②洞爺湖町 火山を学ぶカヌーを楽しむ 2泊目:洞爺湖温泉 ③食材探し(豊浦ホタテ釣り、牧場、ワイナリーチーズ他)3泊目:牧場キャンプ ④札幌(森?都市をたのしむ)	1、網走流水カヤックとワカサギ釣り 2-3 阿寒湖→ペンケバンケー→津別峠→外輪山 4、冬のSL湿原号とJAPAN酒	1日目:目国内山→トレッキング →農業体験 ※美味しい米作りの原点を見る、知る→食べる 2日目:尻別川をツーリング(25m)、カヤック ↓ 3日目:海までツーリング 4日目:シーカヤック(海のものを食べる)→温泉	1日目:美瑛郷土館で美瑛町・十勝岳の歴史、文化を学習 2日目(ピーク):トレッキング 3日目:しらひげの滝見学 4日目:白金温泉入浴	<夏> 1日目:ダムで浮かぶ 2日目:川下り ラフティング サウナ 3日目:畑収穫体験、地元直売所見学、バン屋(水にこだわっている) <冬> 1日目:峠からダウンヒル、スノーシュー(温泉前泊) 2日目:三股スノーシュー、林業栄枯を知る(温泉) 3日目:タウンシュベツ橋、ダム of 歴史(昔と今を知る)、ワカサギ釣り 4日目:然別湖越え 歩くスキー
5.地域らしさ	食と交流 ・農家さん、漁師さん、地元の人(アイヌ文化を受け継ぐ方)	樹氷と御神渡し、ダイヤモンドダスト、流水、オオワシ、オオハクチョウ	・農家の方との交流 おいしいお米と海の恵みを体験、食するツアー	・十勝岳の歴史は美瑛町の歴史 ・エゾナキウサギ	<夏> 水の流れにそった十勝らしさの美感 <冬> 冬山絶景、地域の歴史、東大雪の自然
6.AT要素の盛り込み	ユニークさ…豊浦のホタテ釣り体験 →他では体験できない。 地域貢献…食材調達して、地域にお金をおとす。	-	【環境配慮】マイボトル、排水を持ち帰る 【自己変革】米作りの原点を知る→食への意識の向上 【ユニークさ】山から海までの水野流れを感じる、知る 【地域貢献】蘭越米を広める	エネルギーを貰える	<夏> ・食(水)に対する意識の向上 ・地域の人によるサポート ・環境に対して優しいアクティビティ(自転車ラフティング) <冬> ・歴史人に翻弄された自然 ・雪山の功略 ・稚平湖温泉で健康

## 2-3-6 アンケート結果

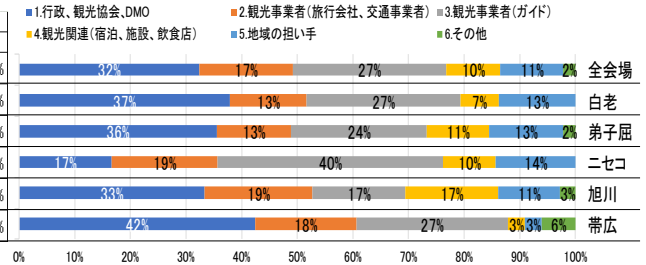
### ①アンケート回答者数と回答者属性の割合

参加者のアンケート回収状況は下記の表のとおり。

オンライン参加者からのアンケート回収率が極端に低いが、すべての会場のオンライン参加者がほぼ同じであったこと、オンライン参加者はワークショップの参加ができなかったことが理由と考えられる。

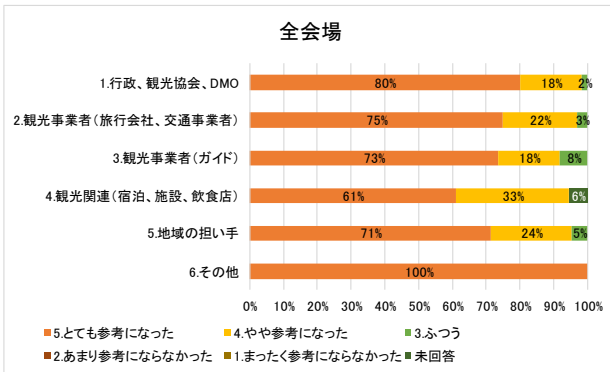
また回答者属性に関しては、右のグラフのとおり割合である。

会場	全参加者			現地			オンライン		
	参加者数	回答数	回収率	参加者数	回答数	回収率	参加者数	回答数	回収率
全会場	317	186	59%	223	180	81%	94	6	6%
白老会場	69	30	43%	41	29	71%	28	1	4%
弟子屈会場	64	45	70%	49	44	90%	15	1	7%
ニセコ会場	57	42	74%	44	38	86%	13	4	31%
旭川会場	71	36	51%	46	36	78%	25	0	0%
帯広会場	56	33	59%	43	33	77%	13	0	0%



※白老の数値については現地参加29名のほか、オンライン参加1名の数値が含まれています。

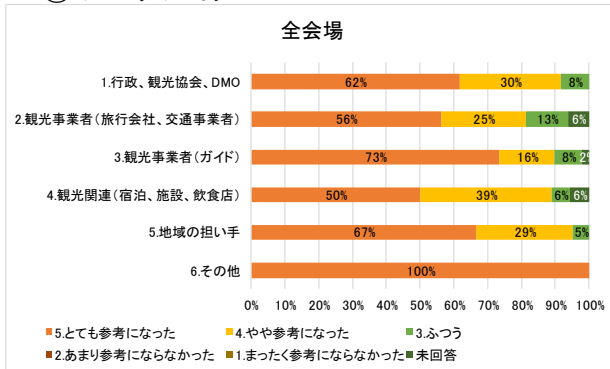
### ②情報提供／AT実践者の講演



#### 【自由回答抜粋】

・ATを知らなかったので参考になった。実践例が聞けてよかった。たくさんの方々と話すことによって視野が広がりました。  
 ・実践者の講演なので参考になった。海外の成功事例やそこまでのストーリーを知れたらと思いました。

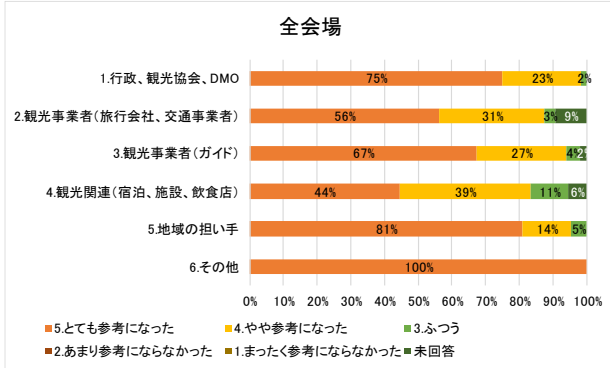
### ③ワークショップ



#### 【自由回答抜粋】

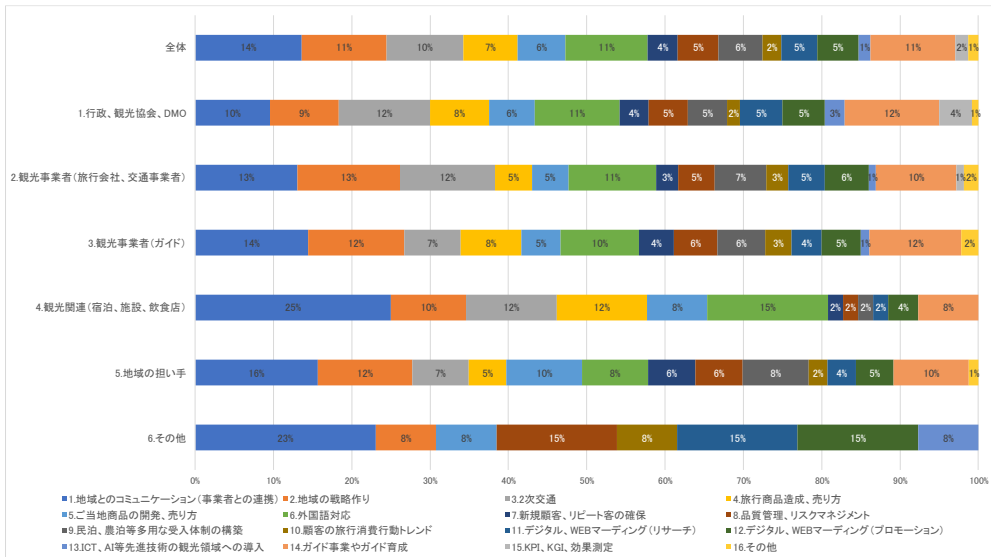
・コンセプトの大切さと、アクティビティの関係が勉強になった。他地域の魅力を知ることができるきっかけになった。  
 ・色々な意見交換ができて参考になった。

### ⑤ イベント全体を通じた評価



**【自由回答抜粋】**  
 ・ATツアー造成における考え方、組み立て方を学ぶことができて大変良かったです。造成する楽しさもあり、また、色々な方と情報交換できてよかった。  
 ・様々な業種の方とお話もでき有意義でした。関係者同士の連携強化という目的は達成できたと感じる。

### ⑥ 観光の課題



アンケート結果より、イベント全体の感想に「色々な方と情報交換できてよかった」などと記載があり、かつ全属性で「参考になった」との回答が大多数を占めていることから、満足度の高いイベントであったことがうかがえる。観光の課題として、全属性において地域とのコミュニケーション(事業者連携)が課題と感じていることが読み取れた。

また、「非ガイド層」「ATを掴み切れていないガイド層」である地域の担い手についても同様の結果であり、イベントの当初の目的である「非ガイド層」「ATを掴み切れていないガイド層」の巻き込みについて、十分な効果が得られたと言える。

## 2-4. 地域ごとのAT機運の醸成 冬のモニターツアー

### 2-4-1. 目的

地域ごとの冬の日帰りのATエクスカージョンを造成し、地域関係者に実際に体感していただいた。当初は地域ごとのネットワーキングイベント前に実施予定であったが、各イベント参加者が出した意見を基にATエクスカージョンを組み立て、さらに体験した方が理解が促進し、巻き込みの効果が大きくなることから冬の開催とした。目的としては下記の通りである。

- ・「非ガイド層」「ATを掴み切れていないガイド層」ATへの理解促進と地域機運の醸成
- ・全道5か所の地域イベント参加者がワークショップで出したアイデアを体験してもらう。
- ・事業終了後も地域が持続的に各々で繋がりを深めてもらい、関係者の裾野の拡大を図る。

### 2-4-2 概要

- ・企画運営するにあたり、地域と内容の選定については、下記の通り行った。
- ・地域イベントで出たアイデアやコンセプトを活用する。
- ・事務局にて上記アイデアをAT視点で組立て直した。

同様にエクスカージョンの実施に当たって、事前にMICを周知し、かつ本番についてもスルーガイドをつけての全体説明なども実施した。

※MIC (Minimum Information for Customers)・・・全体の行程と内容、必要な携行品や装備、期待できる体験、体験上の注意点、事前に取得すべき顧客情報（年齢や身長等）、保険加入の有無（顧客側での加入可否）等に関する情報など、旅前に旅行者が得るべき最小限の情報

	開催日／ 参加人数	エリア	コース名／コース概要
1	令和3年 2月4日(木) 10:00～17:00	白老町	<b>白老アイヌのルーツをたどる～歴史巡り・森歩き・文化体験ツアー～</b> 2020年に国立アイヌ民族博物館を含む民族共生象徴空間が開業した地である白老で、過去の白老アイヌの歴史を知り、現代に技術を受け継ぐ伝承者と手仕事体験を通して交流をすることで、北海道の先住民族であるアイヌ民族・文化の未来を、参加者とともに考えるツアーです。
2	令和3年 2月4日(木) 8:00～15:00	網走市	<b>北方民族オホーツク人の足跡をたどるツアー ～ワカサギ氷下漁見学とバードウォッチング～</b> かつてオホーツク海沿岸に居住していたオホーツク人はカヤックで海を渡り、流氷と共に暮らし、ワカサギやチカなどを食べて生活し、鷺の羽で外貨を稼いでいたといわれています。彼らの生活の一部を、現在のアクティビティを通して知ることができるツアーです。
3	令和3年 1月26日(火) 10:00～16:00	蘭越町	<b>米の産地蘭越で、おいしいお米の秘密を探る～スノーシューツアー～</b> 北海道屈指の美味しいお米の産地、蘭越町で美味しいお米の秘密を探るツアー。スノーシューで蘭越の魅力を堪能しつつ、この土地で美味しいお米が収穫できる理由をガイドと一緒に見つけにいけます。スノーシューを楽しんだ後は、使用するお米は全てらんこし米にこだわった街の茶屋のレストランでおにぎり作り。
4	令和3年 1月20日(水) 9:30～14:00	美瑛町	<b>丘のまち・びえいをめぐる～丘のスノーシューツアー～</b> 大雪山国立公園の西部に位置する、美瑛町の丘をスノーシューでめぐるツアーです。農地に許可を得た専属ガイドと一緒に、ふだんは農家さんしか見ることのできない特別な景色を見に行きます。活火山・十勝岳とともに生きてきた美瑛の人々と主幹産業である農業を、丘の上から俯瞰してみましょう。
5	令和3年 1月22日(金) 13:00～16:00	上士幌町	<b>十勝・糠平の歴史を探る～冬のぬかびらスノーシューツアー～</b> 大雪山国立公園の南東部に位置する、糠平の森に佇む産業遺産をスノーシューで巡るツアーです。国の有形文化財に登録された糠平川橋梁などにまつわる十勝の発展に寄与した糠平地区の産業を学びます。

2-4-3 冬のモニターツアー

①MIC (Minimum Information for Customer)



**1-Day Guided Ainu Culture Tour in Shiraoi**  
白老アイヌのルーツをたどる～歴史巡り・森歩き・文化体験ツアー～

**■ OVERVIEW | ストーリー**

日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であるアイヌ民族。ひとえにアイヌ民族・文化といっても、実は北海道の中でも地域ごとに受け継がれる文化や風習、言葉などは、様々であり、まさに多様性そのものである。本ツアーでは、2020年に国立アイヌ民族博物館を含むウゾゴイ（民族共生交流空間）が開業した地である白老で、過去の白老アイヌの歴史や自然と共に暮らす生活の知恵を知り、現代に技術を受け継ぐ伝承者と手仕事体験を通して交流をすることで、北海道の先住民族であるアイヌ民族・文化の未来を、参加者とともに考えるツアーである。

**■ HIGHLIGHT | ハイライト**

- ・前段の白老アイヌの歴史をインプットした上での、現代の伝承者との交流。
- ・アイヌと自然のかかわりについて知る、森歩き。



**GUIDE**

スルーガイド  
株式会社NEPKI（ネアキ）  
所在地：平取町字二風谷  
米澤 節

**ACTIVITY**

歴史巡り・森歩き・  
文化体験  
(シナノキの内皮を作ったカエガ（細作り体験）と4本編みのアレスレット作り)

**DIFFICULTY**

レベル1  
森歩き：約1時間半  
地形：ほとんどアップダウンのない森の中の散策路

**■ WHAT TO TAKE | 持ち物**

- ・防寒着、温かい恰好、動きやすい服装（防寒、防水、防風）
- ・冬用の靴（スノーブーツ）
- ※散策路は雪と水で非常に滑りやすくなっている可能性があります。すべりにくい靴でお越しください。
- ・帽子、手袋、ネックウォーマー、サングラス等
- ・水ボトル/水筒（昼食時の飲み物をご持参ください）
- ・不織布マスク（新型コロナウイルス対策）

**■ ITINERY | 行程**

10:00	ポロミントラ（住所：岩手県下田郡下田町1-21）集合 <small>（行程中は貸切バスで移動）歴史巡り～アイヌ館～自宅軌道駅跡～自宅山自然保護区 等</small>
12:00	昼食①白老中央生道館 地元のカフェのケータリングお弁当
13:15	ポロトの森歩き 約1時間半程度の散策路をガイドの案内で歩く
15:00	手仕事体験①白老中央生道館 ちょとした交流（フリータイム）
17:00	ポロミントラにて終了・解散

**■ INFORMATION REQUIRED | 事前にお知らせください**

- ・緊急連絡先→申込時に受領済
- ・持病、服用している薬（あれば）
- ・アレルギーの有無、内容→申込時に受領済
- ・食事制限の有無、内容→申込時に受領済

**■ INCLUDED | 料金に含まれるもの**

- ・昼食代、体験料
- ・ガイド料
- ・バス料金
- ・保険料、取扱手数料
- ※本ツアーは料金の徴収はございません

当日撮影する写真等は、事業報告のためのウェブサイトに掲載をさせていただく可能性があります。写真がある場合は当日スタッフまでお知らせください。

株式会社北海道宝島旅行社（北2-597 ANTA正会員）  
〒060-0052 札幌市中央区南2条東2丁目8-1  
TEL: 011-252-2115 | <https://hokkaido-takarajima.com/>

■ ガイドのご紹介



アイヌとソマリランドのハーフ  
**RYO YONEZAWA 米澤 諒**

父がアイヌ、母がソマリランドの元で生まれ、10歳までカンボジアで生活し、日本に帰国。高校卒業まで東京で暮らし、自分の民族でもあるアイヌ文化について学ぼうと札幌大学に進学。札幌大学卒業後にもっと専門的アイヌ文化を知るために、公益財団法人アイヌ民族文化財団の田舎育成事業に参加し、アイヌ語・歴史・文化・技術等を3年かけて修得。2020年4月より、アイヌ文化をより身近に感じ楽しんで貰うためのガイド業務を始める。

**NEPKI-TOURに込める思い**

今までになかったガイドを作りたい。アイヌ文化を様々な目線から見ると、お客様の興味ある分野から見るアイヌ文化はどう映っているのかも知りたいたい。自分の得意な領域でアイヌ文化を知ってもらいたい。

■ 当日の集合場所・時間

2021年2月4日（木） 午前10:00 白老町 ガロトミントラ（住所：岩手町1丁目1-21）



■ 当日の緊急連絡先・事前確認事項等の問合せ先

（株）北海道宝島旅行社 観光地域づくり部 担当：高井 玄（とこい げん）  
携帯：080-3303-6830 E-mail: tokoi@hokkaido-takarajima.com

■ 新型コロナウイルス対策として、以下の項目に該当する方はご参加をご遠慮いただきます。

- （1）過去2週間以内に37.5℃以上の発熱のある方
- （2）せきのある方
- （3）のどの痛みのある方
- （4）味覚の異常がある方
- （5）嗅覚（におい）の異常がある方
- （6）過去2週間以内に、新型コロナウイルス感染者との接触があった方

なお、当日集合時にもスタッフが体温チェックを行います。その際に37.5℃以上の発熱があった場合にも参加をお断りさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ その他参考情報

- ・お車でお越しの際は、集合・解散場所であるポロミントラ駐車場にお停めください。安全なツアー進行のため、ツアー内における個人の車での移動はご遠慮いただいております。

【表面に記載の行程の難易度（レベル1～5）について】

- 1: Relaxed/Social（ゆるやかな文化体験、軽いアクティビティ、野生動物観察）
- 2: Easy/active（初級：1日あたり1～4時間の軽やかな身体的活動）
- 3: Moderate（中級：ある程度の体力が必要、1日あたり約4～6時間の身体的活動）
- 4: Vigorous（進歩：1日あたり5～8時間の身体的活動、それに見合う体力と経験が必要）
- 5: Challenging（挑戦的：最大8時間以上の身体的活動、それに見合う体力と経験が必要）

株式会社北海道宝島旅行社（北2-597 ANTA正会員）  
〒060-0052 札幌市中央区南2条東2丁目8-1  
TEL: 011-252-2115 | <https://hokkaido-takarajima.com/>

## 2-4-3 冬のモニターツアー

### ② イベントの様子(白老コース)

白老アイヌのルーツをたどる～歴史巡り・森歩き・文化体験ツアー～

①



白老駅北観光 インフォメーション センター(ポロミンタラ)にてツアー冒頭に行程の全体像を説明。お互いの自己紹介も行い、グループマネジメントの要素も取り入れて実施。

②



行程間の移動中のバスの車内でも、アイヌ文化についてや、白老アイヌの背景知識などをスルーガイドの榊NEPKI米澤氏が説明。

③



歴史巡りのスタート地点として、元々白老のコタンがあった場所である白老町高砂のアイヌ記念広場にあるアイヌ碑前で、白老アイヌの歴史を説明。

④



昼食は、地元のコミュニティカフェミナパチセの地元食材をメインに使った現代風アイヌ料理が提供された。店主の田村氏から食材と料理の説明がなされた。

⑤



午後のポロの森歩きでは、1時間半程度の散策の中で、アイヌ民族がどのように自然と共生してきたかをスルーガイドが解説。休憩では、アイヌのエント茶と鮭とばがサプライズで提供された。

⑥



ツアーのクライマックスは、現代に技術を受け継ぐアイヌ文化の伝承者の方に教わるシナノキの内皮を使ったカエカ(紐作り体験)と4本編みのブレスレット作り体験をした。

#### 【参加者からの感想】

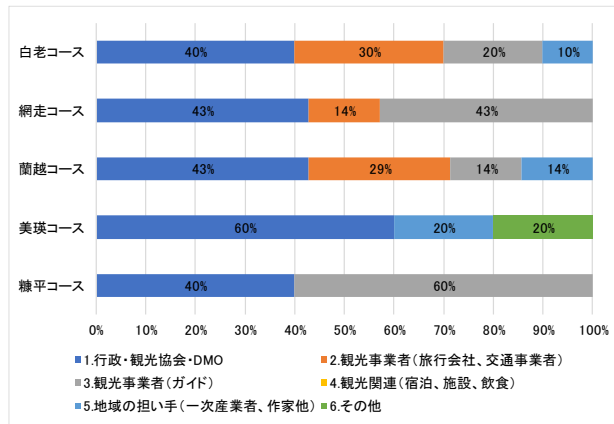
- ・敢えてウポポイを訪れず、白老コタンの起点から巡るという行程は、米澤さんならではのと思いました。
- ・アイヌ民族の誇りに触れ、「多様性を真に認め合うということ」とは？を考えるきっかけを頂きました。
- ・アイヌの方々の自然との関わり方がよく分かりました。お茶、コーヒーのサプライズも良かったです。
- ・自身が用意した木の内皮を工芸の方から説明してもらうなど、配慮が感じられました。
- ・アイヌ文化ならではの木材の使い方や精神性などとても勉強になった



## 2-4-4 アンケート集計結果

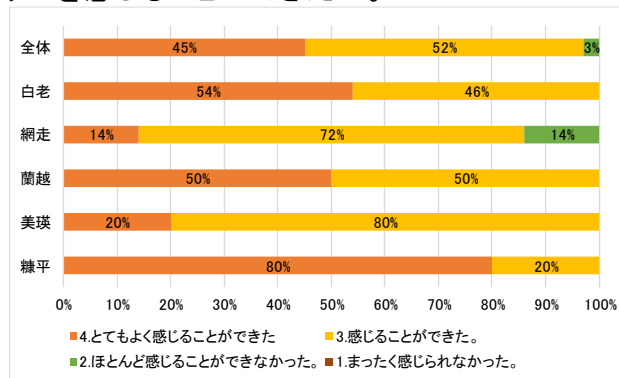
### ①参加者属性

コース毎の参加者属性は下記のグラフのようになった。全体的に「1.行政・観光協会・DMO」に所属する方々の参加が多かった。新型コロナウイルス感染拡大の状況で少人数での実施となったが、総じて様々な所属の関係者に参加いただいた。

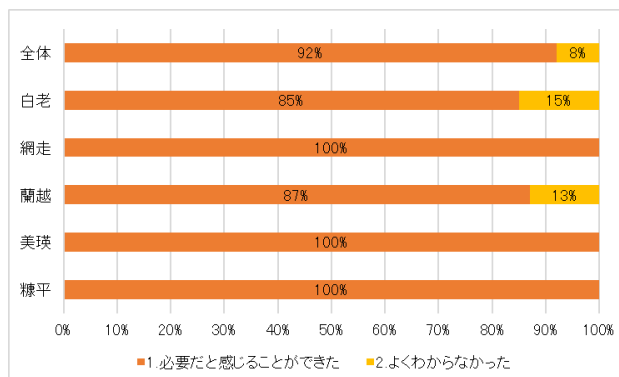


### ②参加プログラムの感想

#### 【1】テーマやストーリーを感じることができたか。

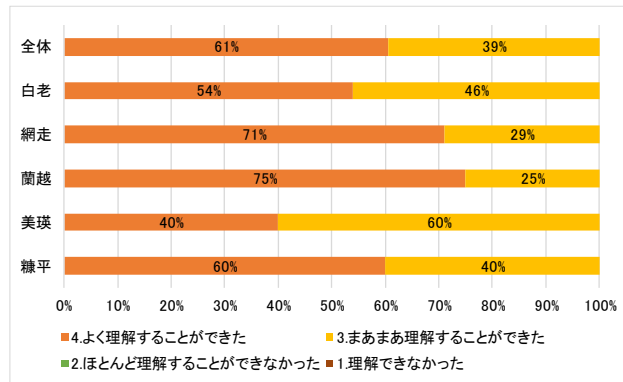


#### 【2】スルーガイド(全体を通して説明するガイド)の役割に関して必要だと感じる事ができたか。

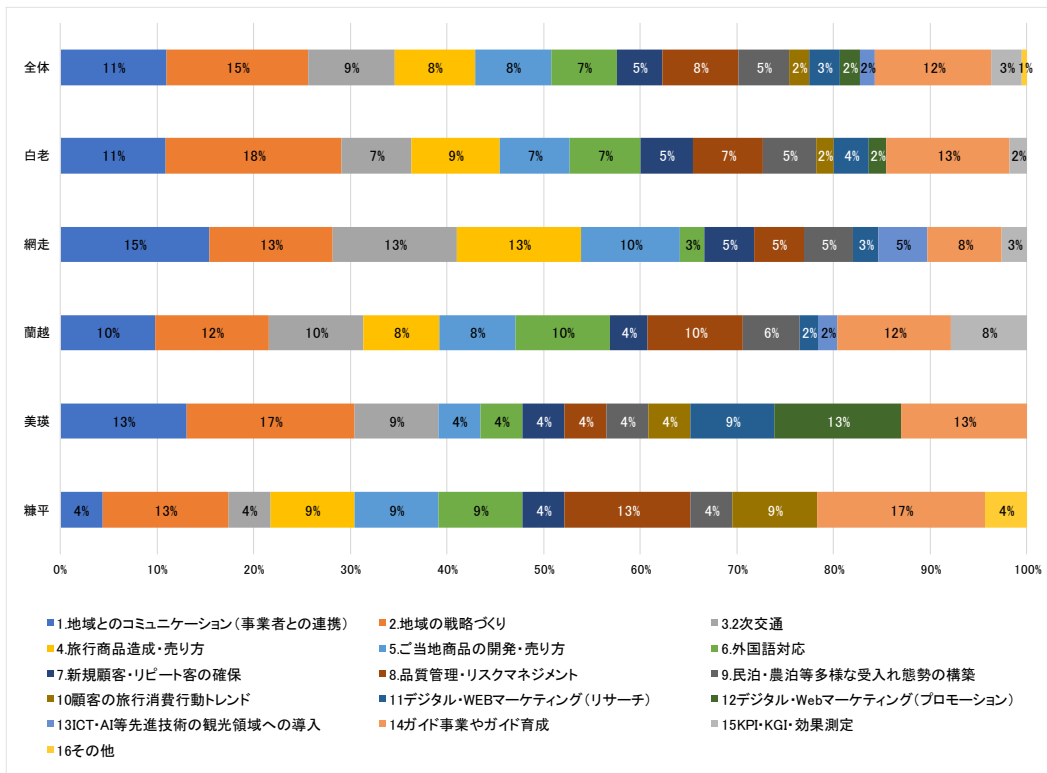


## 2-4-4 アンケート集計結果

### 【3】地域について、アクティビティを通して理解することができたか



### ③地域の観光の課題



アンケート結果より、モニターツアーの回答を総括すると、どの回答にも高評価の回答が大多数を占めていることから満足度の高いイベントであったことがうかがえる。以上より、当初の目的であった、「非ガイド層」「ATを掴み切れていないガイド層」のATへの理解促進と地域機運の醸成について、十分な効果が得られたと言える。

また、地域の観光の課題として、地域のネットワークイベント時の結果同様、「地域とのコミュニケーション」「地域の戦略作り」「ガイド事業やガイド育成」については、高い関心を集めていることが分かった。その点については、自由記述より「地元トークもあり、親近感がわきやすかった(白老)」「周遊観光の場合、後で思い返した時に訪問地がごちゃ混ぜになってしまう場合がありますが、今回のように由来や文化と紐づいていると、記憶が整理されることに気づかされました。(美瑛)」とあり、地域の深い理解と繋がりを持つことが、ATにとって重要な要素であることも理解いただける内容となった。

## 2-5. アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-1. アドベンチャートラベル北海道ミーティングの全体概要

#### ① 目的

2021年に北海道開催が内定している Adventure Travel World Summit に向けて、関係者間の連携強化、実践的な知識習得、機運の醸成を図ることを目的としたイベント「アドベンチャートラベル北海道ミーティング(ATHM)」を開催した。各地域のネットワーキングイベントを開催し、ATについて興味を持った層に対しても参加を促し、彼らの質的向上に役立てた。

#### ② イベント概要

開催時期と場所については、ガイドや非ガイドの人々の参加のしやすさや、新型コロナウイルス感染の対策など検討した結果、下記の計画にて実施することとなった。

■日時 令和2年11月11日(水)-12日(木)

■場所 札幌コンベンションセンター

■住所 〒003-0006 北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

■施設説明 白石区にある札幌コンベンションセンターは、ATWS2021の会場としての利用が予定されている。

#### ■実施スケジュール

日時	時間	実施内容
11月11日(水)		エクスカッション
	7:30~	白老 余市 洞爺湖 旭川
11月12日(木)		セミナー&ネットワーキングイベント
	9:30	北海道アドベンチャートラベル協議会 総会
	10:30	アドベンチャートラベル北海道ミーティング開会
	10:35	アドベンチャートラベル討論会
	12:00	休憩
	13:00	基調講演
	14:00	セミナー① ミニセミナー①
	15:00	セミナー② ミニセミナー②
16:00	クロージングスピーチ	

#### ■アドベンチャートラベル北海道ミーティング参加者数

1日目	2日目	合計人数(延べ)
35名	104名	139名

#### 事前告知チラシ



## 2-5.アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-2.エクスカージョンの開催概要

#### ①目的

次年度開催されるATWS本番と同様に、参加者が実際にATを体験し、他地域のAT資源について理解を深めていくことを目的とし、4本のエクスカージョンを開催した。

#### ②開催概要

札幌から発着可能な場所にてワンデーのエクスカージョンを実施した。※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各組織・団体からの参加者は、1コースにつき1名までとした。参加者の選定については受付締切り後、事務局にて調整を行った。

また各エクスカージョンのコース選定にあたっては、2021年に開催予定であるATWS本番と同様に、札幌発着の日帰りエクスカージョンを実施できるコースを4つ選定した。

#### ■開催日時

令和2年11月11日(水) 7:30～18:00(コースにより異なる)

#### ■コース概要

日程／人数	エリア	コース名
令和2年 11月11日(水) 7:45～18:30	登別・白老	<b>ウポポイ(民族共生象徴空間) &amp; 登別地獄谷ウォーキングツアー</b> 北海道の自然と人間との共生について、さまざまな視点から学ぶツアーです。白老町では「ウポポイ—民族共生象徴空間」の見学と、アイヌのお母さんたちが運営する地元レストランでアイヌ料理を堪能。登別地獄谷のガイドウォークでは、自然の偉大さを体感します。
令和2年 11月11日(水) 8:15～18:00	余市	<b>余市サイクリング &amp; 地域住民との交流</b> 余市の暮らしを、地域住民とともに楽しむライトなツアーです。余市の名産である果樹園が並ぶエリアをロードバイクで移動しながら、初冬の余市の景色や産業を堪能。存分に走ったあとは、地域住民と交流しながらのランチタイムを楽しみましょう。
令和2年 11月11日(水) 7:45～19:00	洞爺	<b>洞爺湖有珠山ジオパークガイドウォーキングツアー</b> 火山マイスターによる、洞爺湖有珠山ジオパークのガイドツアーです。 噴火のたびに姿かたちを変える活火山・有珠山とともに生きる人々の暮らしの中を歩き、この土地の人々の「自然との付き合い方」について学びます。北海道の大地の成り立ち、自然の驚異を体感する一日です。
令和2年 11月11日(水) 7:30～17:00	旭川	<b>アイヌとゆく歴史散策：日帰りガイド付き先住民文化ツアー</b> 日本遺産登録を受けた上川アイヌが歩んできた歴史、自然との関わり方、現代に伝承された文化や営みに触れる先住民文化交流ツアーです。日本最古で唯一の私設アイヌ資料館「川村カ子トアイヌ記念館」や、アイヌが信仰する山をアイヌガイドと共に歩き、アイヌの暮らしについて学びます。

## 2-5.アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-3 エクスカーション

#### 【旭川コース】

#### ①MIC (Minimum Information for Customer)



#### Travel the Time with Ainu : 1-Day Guided Indigenous Cultural Tour アイヌとゆく歴史散策：日帰りガイド付き先住民文化ツアー

##### ■ OVERVIEW | ストーリー

「カムイと共に生きる上川アイヌ」として日本遺産登録を受けた上川アイヌが歩んできた歴史、自然との関わり方、現代に伝承された文化や営みに触れる先住民文化交流ツアーです。アイヌが「我ら祈る山」と称し信仰する嵐山テノシリを歩き、アイヌが生活用具や食材として用いた草木について学びながら、旭川市や大雪山の山々が一瞥できる展望台を目指します。昼食後、1916年に設立された川村カチト記念館を訪問し、アイヌガイドによる案内のもと施設を見学し、アイヌ文化を体験します。

##### ■ HIGHLIGHT | ハイライト

- ・日本最古で唯一の私立のアイヌ資料館を訪問
- ・アイヌ伝統楽器の演奏体験、施設見学等を通じたアイヌとの文化交流
- ・アイヌガイドの案内により聖地「テノシリ」嵐山を軽ハイキング

##### GUIDE

スルーガイド 荒井一洋  
アイヌガイド 川村久恵

##### ACTIVITY

軽ハイキング  
先住民文化体験

##### DIFFICULTY

レベル1  
ハイキング：約2km/約1時間半  
地形：未舗装の散策道  
上り120m 下り120m

##### ■ WHAT TO TAKE | 持ち物

- ・防風/防寒/防水用のジャケット
- ・運動靴
- ・運動しやすい服装/地べたに座りやすい服装
- ・帽子、手袋、マフラー等
- ・水ボトル/水筒
- ・カメラ

##### ⚠️ 雪の天候でも野外を歩ける服装、装備で起こしてください。

用具の下に透水性のあるベースレイヤー、さらにフリースまたはライトダウンジャケットを重ねると体温調整がしやすいです。雪の場合は、足元は滑りやすく濡れる可能性が高いため、登山靴がある方は登山靴、防水性の高い運動靴、もしくは長靴+濡かい靴下がおおすすめです。

##### ■ INFORMATION REQUIRED | 事前にお知らせください

- ・緊急連絡先
- ・持病、服用している薬（あれば）
- ・アレルギーの有無、内容
- ・食事制限の有無、内容

当日撮影する画像や映像は弊社ウェブサイト等に掲載させていただきます。支障がある場合は当日スタッフまでお知らせください。

##### ■ ITINERARY | 行程

7:30	札幌集合
	移動 (約2時間)
	嵐山ハイキング (約1時間半)
	昼食 (お蕎麦)
	アイヌ記念館見学および文化体験
	移動 (約2時間)
17:00	札幌解散

##### ■ INCLUDED | 料金に含まれるもの

- ・昼食
- ・ガイド料
- ・アイヌ記念館入館料
- ・保険料

Adventure Hokkaido 合同会社 (旅行業 2-789)

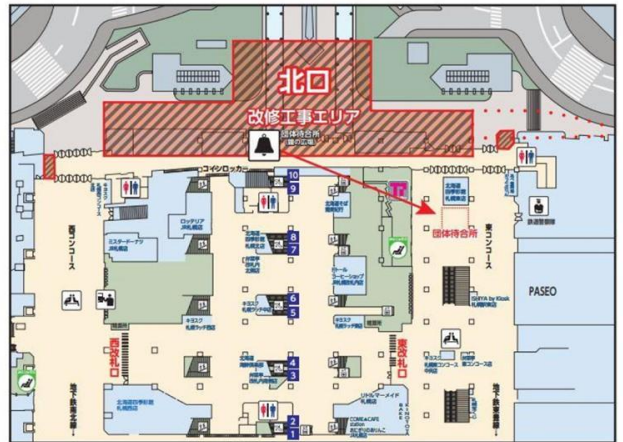
〒071-1404 北海道旭川市東川町西4号北46

TEL 050-5534-9420 | www.adventure-hokkaido.com | info@adventure-hokkaido.com

#### 【裏面】

##### ■ 当日の集合場所・時間

2020年11月11日(水) 午前7:15 JR札幌駅 <団体待合所> 集合 (7:30 貸切バス出発)  
(札幌駅構内 東コンコース<団体待合所> ※北海道四季彩館札幌東店前)



(JR北海道 HPより)

##### ■ 当日の緊急連絡先

(株)北海道宝島旅行社 観光地域づくり部 担当：小濱 有希子 (おばま ゆきこ)  
携帯：080-1973-6001

##### ■ 事前確認事項等の問合せ先

(株)北海道宝島旅行社 観光地域づくり部 担当：小濱 有希子 (おばま ゆきこ)  
携帯：080-1973-6001 E-mail: obama@hokkaido-takarajima.com

その他参考情報 [表面に記載の行程の難易度(レベル1~5)について]

- 1: Relaxed/Social (緩やか：文化体験、軽いアクティビティ、野生動物観察)
- 2: Easy active (初級：1日あたり2~4時間の簡単な身体的活動)
- 3: Moderate (中級：ある程度の体力が必要、1日あたり約4~6時間の身体的活動)
- 4: Vigorous (活発：1日あたり5~8時間の身体的活動、それに見合う体力と経験が必要)
- 5: Challenging (挑戦的：最大8時間以上の身体的活動、それに見合う体力と経験が必須)

以上

## 2-5.アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-3 エクスカーション

#### 【旭川コース】

#### ②エクスカーションの様子

①



スルーガイド荒井氏によるガイドは、札幌を出発した車内からスタート。移動に伴いアイヌ語地名などの説明を加えた。

②



会場の嵐山は各場所にアイヌ語の説明看板もあり、本ツアーのテーマに沿ったフィールド。

③



雪の中、嵐山の軽ハイキングへ。ネイチャーガイドでもある荒井氏は、嵐山の植生にアイヌのエピソードを交えてガイドができる。

④



30分ほどの山歩きの後は、旭川の町を見下ろす展望台へ。アイヌの人々が飲んでいる朴の実茶で休憩。

⑤



川村カ子トアイヌ記念館へ移動。副館長の川村久恵氏によるガイドツアーへ。

⑥



ちょうど鮭とばを作っている時期で、チセの中には煙に燻される鮭が大量に吊るされていた。

#### 【良い評価】

- ・荒井ガイドによるエクスカーションはその土地の植生や上川アイヌの文化、生活など、その土地に根付いたストーリーを感じながら行程を回ることができた。
- ・自然に親しむハイキングとそこにあるアイヌの文化に触れるという2つの要素を組み合わせられてあって、大変充実したツアーだったと思います。
- ・ツアー中に織り込まれている「おもてなし」の心が大変嬉しかったです。とてもきめ細かなご配慮をいただけて感謝しております。
- ・ガイドさんが参加者を見て、ガイド研修のような内容にしようと判断。(参加者…通訳案内士3名、ガイド&ゲストハウス、ウポポイ研究者) 行きのバスの中でも、通りがかりにアイヌ語地名の説明や、地形とアイヌ語のつながりなどをじっくり話しながら行ってくれた。
- ・ガイドさんがネイチャーガイドとしての視点、観光ガイドとしての視点と、さまざまな視点でのガイドのコツや小ネタのはさみ方を実演してくれた。

#### 【中性的な評価】

- ・コロナ後は参加者にムックリのお土産がついているツアーにして、実際に演奏も教えるようにできればいいと思います。

#### 【改善点】

- ・私はアイヌに関する知識がある程度あったので理解できましたが、何も知らない観光客には、もう少しアイヌに関する事前情報を提供すると、よりこのコースを楽しんでもらえるのではないかと思います。
- ・少し寒かったので、冬期間の暖房対策は必要かもしれないと感じた。
- ・雪の日に山登りがちょっとしんどいと思います。天気次第調整したほうが良いかもしれません

## 2-5.アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-4 セミナーの運営

#### 2-5-4-1 目的

北海道全体の機運の醸成、関係者間の連携の強化と、実践的な知識の習得によるガイドの質的向上を目的とし、セミナーの企画・運営を行った。

#### 2-5-4-2 セミナー概要

##### ①配布チラシ

主催：国土交通省北海道運輸局  
～北海道におけるアドベンチャートラベルのつながりづくり～

# アドベンチャートラベル 北海道ミーティング

北海道運輸局では、自然のなかでのアクティビティや異文化体験を通じて自分の内面が変わっていくような旅のスタイル「アドベンチャートラベル（AT）」を、国内外世界中の誰もが楽しめる北海道に相応しい新たな旅のスタイルとして定着させるために推進しています。

そこで、2021年に北海道開催が内定しているAdventure Travel World Summitに向けて、関係者間の連携強化、実践的な知識習得、機運の醸成を図ることを目的としたイベント「アドベンチャートラベル北海道ミーティング（ATHM）」を開催しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

**【1日目】11月11日（水）エクスカッション（65名限定）**  
日帰りアドベンチャー体験の実施  
～詳細は別紙をご確認ください～

**【2日目】11月12日（木）セミナー&ネットワーキングイベント**  
【会場】札幌コンベンションセンター



**荒井 一洋氏**  
北海道アドベンチャートラベル協議会会長



**Aaron Jamieson氏**  
ニセコ在住プロカメラマン。  
NISEKO「powderlife」誌写真編集者



**今野 佑一郎氏**  
ユナイテッド・コムズ法律事務所所属弁護士



**基調講演**  
**Lina Annab氏**  
駐日ヨルダン・ハシェミット王国大使  
(元ヨルダン観光・考古大臣)

2016年 ヨルダン観光・考古大臣就任。  
2017年 世界的イベント「Adventure NEXT」を開催、全長650kmに及ぶ「ヨルダントレイル」を世界に発信。  
2018年 同トレイルが、「National Geographic Traveller」誌「訪れるべき場所2018」に選定される。  
2019年 駐日ヨルダン・ハシェミット王国大使就任。



**吉川 彩香氏**  
Adventure Hokkaido合同会社代表。アドベンチャーガイド



**荻澤 健一氏**  
アルパインツアーサービス（株）代表取締役社長

**開催日：2020.11.11（水）～12（木）**

**【1日目】道内各所（定員／65名）7:30～18:00頃**

**【2日目】札幌コンベンションセンター（定員／120名）10:30～17:00**

申込締切：11月4日（水）（両日とも、定員になり次第締め切ります）  
申込方法：必要事項を、1日目は別紙参加申込書、2日目は裏面申込書にご記入のうえ、下記FAXまたはメールアドレスまでお申し込みください。  
事務局：（株）北海道宝島旅行社（担当：常井、雨池、小濱、齊藤）  
FAX: 011-252-2117 E-mail: at-info@hokkaido-takarajima.com

**参加無料**

## 2-5. アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-4 セミナーの運営

#### 2-5-4-2 セミナー概要

#### ②セミナースケジュール

	中ホール	204会議室	
10:30	①アドベンチャートラベル討論会 ○北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井 一洋 氏 ○英語自然ガイド 馬上 千恵 氏 ○鶴雅リゾート(株) 取締役アドベンチャー事業部部長 高田 茂 氏 ○(一社)黒松内町観光協会 事務局長 本間 崇文 氏 ■ファシリテーター (株)北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木 宏一郎		
12:00	休憩		
13:00	午後の部 挨拶		
13:00	②基調講演 『Sustainable Adventure Travel in Jordan』 ヨルダン・ハシェミット 王国大使館 特命全権大使 リーナ・アンナーブ 閣下		
13:45	休憩		
14:00	③セミナー 『Eyes on HOKKAIDO』 ニセコ在住プロカメラマン Aaron Jamieson 氏	④ミニセミナー 『ガイド実践英会話』 Adventure Hokkaido合同会社 代表 吉川 彩香 氏	14:00 14:30
14:30		休憩	14:45
14:45	休憩		
15:00	⑤セミナー 『スルーガイドの役割について』 アルパインツアーサービス(株) 代表取締役社長 芹澤 健一 氏	⑥ミニセミナー 『ガイド事業の法的視点』 ユナイテッド・コモンズ法律事務所 所属弁護士 今野 佑一郎 氏	15:00 15:30
15:30		休憩	15:45
15:45	休憩		
16:00	⑦クロージングスピーチ 『SDGsと観光』		
16:45	北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井 一洋 氏		

#### ③セミナー内容

##### ①アドベンチャートラベル評論会

【内容】地域ネットワークイベントの講師による、イベントの講評と、実践例の共有。

##### ②基調講演 『Sustainable Adventure Travel in Jordan』



【内容】ヨルダンをアドベンチャートラベルの目的地として急成長させた功労者より、ヨルダンの持続可能なアドベンチャートラベルについての講演。

【登壇者紹介】ヨルダンをアドベンチャートラベルの目的地として急成長させた功労者。

2016年に観光大臣に就任し、2017年、世界的イベント「Adventure NEXT」を開催。全長650kmに及ぶ「ヨルダントレイル」を世界に発信。2018年に同トレイルが、National Geographic Traveller誌「訪れるべき場所2018」に選定される。

##### ③セミナー 『Eyes on HOKKAIDO』



【内容】Eyes on HOKKAIDO=北海道に熱視線・注目が集まっており、その視線(eye)はどういった人の視線で、どういったメディアを見ているのか。情報収集、そのeyeが好む(=目に留まる)コンテンツに関するレクチャー。

【登壇者紹介】13年前からニセコを拠点に活動するオーストラリア出身のプロカメラマン。活動の初期にオーストラリアのアドベンチャー雑誌の依頼で訪れたグリーンランドやパタゴニアでの取材がアドベンチャーとの関わりを深めた。

##### ④ミニセミナー 『ガイド実践英会話』



【内容】ATの現場で使える英会話を、ニュージーランドで7年間のサイクリングガイド経験を持つ吉川氏からレクチャー。

【登壇者紹介】高校卒業後、ニュージーランドの大学でレクリエーション管理とアウトドアリーダーシップの学士号を取得して卒業し、同国で主にハイキングを取り扱う旅行会社にガイドとして就職。2019年に地元の地域社会により多くの機会をもたらす、訪問者と北海道のユニークな文化を共有するため同社を設立。

##### ⑤セミナー 『スルーガイドの役割について』



【内容】ツアーを最初から最後までガイドするスルーガイドを中心に、世界のATガイドはどのような対応をしているのかの講演。

【登壇者紹介】大学在学中の長期研修で滞したニュージーランドでトレッキングや登山に親しみ、帰国後にハイキング、トレッキング、登山を中心とする旅行会社であるアルパインツアーサービス株式会社に入社。販売促進のみならず、環境保護・ガイド教育体制・地域振興の観点から世界中のトレッキング・ハイキングコースのプロデュース全般に深く関わる。

##### ⑥ミニセミナー 『ガイド事業の法的視点』



【内容】主にBtoBの取引が想定されるAT市場での事業展開にむけて、準備しておくべきことは何かのレクチャー。

【登壇者紹介】2012年に弁護士登録。「北海道アウトドアフォーラム2019」にてアウトドア事業に関係する法令やツアー中の事故による責任について解説するなど、アウトドアに関する知見も持つ札幌弁護士会所属の弁護士。

##### ⑦クロージングスピーチ 『SDGsと観光』

【内容】観光業界におけるSDGsのトレンドと、ATWS2021を契機とした持続可能な観光の実現について。



## 2-5. アドベンチャートラベル北海道ミーティングの開催

### 2-5-4 セミナーの運営

#### 2-5-4-3 AT討論会

各地の関係者の様子を全道で共有すべく、各地のイベントの講師に登壇いただき、各地の様子のフィードバックを行った。

また、講師自身の実践例を講師同士で共有いただき、自身の質の向上を図ったほか、参加者に対してもATに対する理解の促進、および自身の地域に置き換えればどのような活動が可能か、を考える場とした。



#### 2-5-4-4 基調講演『 Sustainable Adventure Travel in Jordan 』

##### ①会場設営



会場には両国の国旗とともにヨルダントレイルのパネルを展示



講演は参加者にレシーバーを配布しブースを構え、同時通訳を実施した。

2-5-4-4 基調講演『 Sustainable Adventure Travel in Jordan 』

②セミナー内容

実施時間 11月12日(木)13:05～13:50

実施場所 中ホール

講師 Lina Annab氏

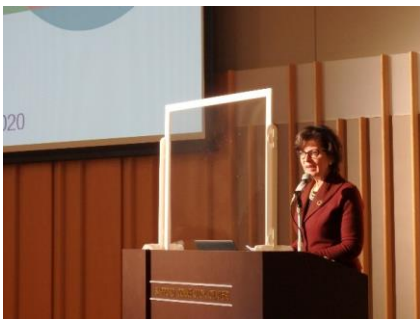
基調講演として、ATの先進地の事例として、駐日ヨルダン・ハシェミット王国特命全権大使 リーナ・アンナーブ閣下に講演いただいた。ATWSを実施した国として、北海道に及ぼす経済的な影響についてお話いただいた。また、自身が作り出したヨルダントレイルが官民・幅広い関係者が連携してできたコースであり、地域の文化やストーリーを広めることができる手段として機能していることを伝えた。



冒頭、加藤北海道運輸局長より挨拶



ヨルダントレイルが出来るまでの経緯及び地域に与えた影響についてお話いただいた



ご講演されるリーナ・アンナーブ閣下



途中、具体的な数値や動画などを用いて効果的にお話いただいた



ヨルダントレイルをイメージしやすいように動画による紹介もいただいていた

## 2-5-4-5 セミナー 『 Eyes on HOKKAIDO 』

実施時間 11月12日(木)14 00 ~14 45

実施場所 中ホール

講師 Aaron Jamieson 氏

地域での魅力的な発信や近年増え続ける個人のSNSでの発信において、効果的な写真撮影や見せ方を学ぶことができるよう、ニセコ在住のプロカメラマンのAaron Jamieson 氏に講演いただいた。

当日は講師の体調不良により、来札ができず、急遽オンラインでのセミナーとなった。

### 【内容】



Aaron氏(右)と通訳の長井氏。当日急遽来場できなくなり、オンラインでのセミナーとなった。



ストーリーが伝わるような写真であること、写真等の情報にも消費期限があることなどをご講義いただいた。

自身が撮影した写真や動画を用い、効果的な撮影をするための4つのポイントなど実用的な情報が得られた。

誰に情報を届けたいかをよく考えて露出することが重要と強調していた。

## 2-5-4-6 セミナー 『 ガイド実践英会話 』

実施時間 11月12日(木)14 00 ~14 30

実施場所 204会議室

講師 吉川 彩香 氏

ガイドがAT顧客を案内する現場で、リアルに活用できる英会話講座を実施すべく、ニュージーランドで7年間サイクリングガイドとしての経験を持つ吉川氏に講演いただいた。

自己紹介までは簡潔な英語で話すこと。そして日本人が苦手な具体的な発音で。という初心者のハードルを下げる講座となった。

### 【内容】



セミナー会場の様子。現役ガイドも多数参加されていた。



ニュージーランドや北海道でのご自身のガイド経験を例に挙げ、言語を学ぶことは楽しく、外国語を学んで話し、コミュニケーションをとること自体がアドベンチャーであることをお話いただいた。

すぐに対応できる実用的なポイントに絞った講義内容で、流暢に話せなくてもコミュニケーションをとることができることを実例を交えてお話いただいた。

## 2-5-4-7 セミナー『スルーガイドの役割について』

実施時間 11月12日(木)15:00～15:45

実施場所 中ホール

講師 芹澤 健一 氏

ATのツアー造成、およびお客様をご案内する際に最も重要な役割を担うスルーガイドについて、実際に送客する旅行会社の視点から芹澤氏にお話しいただいた。

スルーガイドに必要な心構えや、関係者との連携の重要性についてなどあらゆる角度からスルーガイドに求められる役割をお話しいただいた。

### 【内容】



スルーガイドには何が求められるのか、旅行会社として実際に送客し、自らガイドも行う実体験に基づくセミナーをしていただきました。

現地のプロをまとめる、状況に応じてベストコンディションで提供する、お客様の力量やその時の体調により適切に提供するためにスルーガイドが必要と強調されていた。



受け入れ地域に必要な点として、若い人の力で地元の自然・文化を次世代に伝える人材育成、道内各地域の特徴を組み合わせることで北海道全体でATの商品という概念持つ必要があるとの示唆があった。

## 2-5-4-8 セミナー『ガイド事業の法的視点』

実施時間 11月12日(木)15:00～15:30

実施場所 204号室

講師 今野 佑一郎 氏

BtoBの取引が想定されるAT市場での事業展開に向けて、ガイド事業者が備えるべき書類や知っておくべき法律などについての講演を弁護士である、今野氏にお話しいただいた。

「何かあってから」ではなく、事態を事前に想定し、対応することが信頼を失わないための方法であることを講演いただいた。

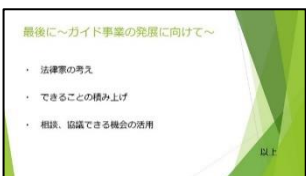
### 【内容】



堅くなりがちな内容のため、自己紹介で会場を和ませてから始まりました。

普段はあまり触れることのないガイドの方に関係する法的知識について講義していただきました。

法的に対応していることをどのように見える化するか、対外的な信頼を獲得する方法、ツアーやプログラムを催行する際の法的な視点など、気づきを得られる内容でした。



できることから積み上げていく、対応すべきことの意味合いを考えることが事業の発展に役立つとのアドバイスで締めくくられました。

## 2-5-4-9 クロージングスピーチ『SDGs と観光』

実施時間 11月12日(木)16:00～15:45

実施場所 中ホール

講師 荒井 一洋 氏

昨今世界的な動向として「サステナブル」という言葉がはだし使われだしている。持続可能で、次世代につなぐための動きであり、観光においても同様によく聞く言葉であるが、実際にどのような取組なのか、またどのように活動することが「サステナブルなのか」について荒井氏に講演いただいた。

一時の流行りで終わらせないような取組について、具体例を話しながら、初心者にもわかりやすく講演いただいた。

### 【内容】



海外では「持続可能ではない地域には旅行に来てくれない」というのがトレンドになっており、サステナブルは既に旅行の条件であると説く講師。

持続可能な観光に取り組んでいるという信頼を得るための認証制度について、GSTC基準とともに説明していただいた。

海外における持続可能な旅行を選択する割合が年々高まっているのに対し、日本はマネジメント組織が弱いため、海外には追いついていないのではないかとの発言があった。



持続可能な旅行を作っていくには、顧客側のニーズを把握し来訪者・旅行会社・地域が信頼しあって、相互に持続可能な行動を取り合うことが大切と締めくくられました。

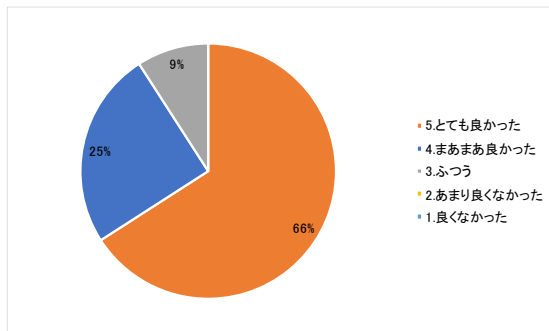
## 2-5-4-10 イベント参加者 イベント実施全体アンケート

## ①イベント全体を通しての感想

エクスカーションとセミナーを含めたイベント全体の感想としては、91%の方が「とても良かった」「まあまあ良かった」を選択する満足度の高い内容であった。

自由記述の内容を見ると、「AT自体の理解促進ができた」「様々な実践者のお話が聞け、今後の参考になった」「コロナ禍の中で人に会える貴重な機会となった」とあり、当初の目的であった「関係者間の連携強化」、「実践的な知識習得」、「機運の醸成を図る」について、達成できたといえる。

今後の課題や要望として、より実践者や関係者同士のネットワークが深められるような機会を継続的に実施していくことが求められており、参加者同士がより交流できるような仕組みづくりが必要である。



## 参加者のコメント

## 【イベント全体に関する内容】

- ・来年の北海道で行われるATWSがファイターズが北海道にやって来たときの様な千載一遇のチャンスなんだと言うことがわかりました。
- ・今までの観光は、自分達の利益に偏りがちのことが多いが、その環境を最大限に活かして、そこに住む人達も参加型になり、正しい情報をお客様は学んで帰る事で、遊びに行った環境が観光客で荒らされず、逆に正しい情報をSNSなどで勝手に循環する様になる。国にもお金が入り、そのお客様に関わるガイド達にもお金が入り、地元の人達にもお金が入り、お客様は満足して有意義な時間を過ごす。環境も汚染されないガイドングもあるからこそ、素晴らしい最後のストーリーになると感じました。北海道や日本でも、ここまでストーリー性のある観光にしないと、ただのお金稼ぎになってしまう。歴史と文化を伝える事で、世界中の人たちが人種違いで差別をせず、相手も認め合える事に繋がる。戦争も起きにくくなるだろう。素晴らしい仕組みだと思い、これが実現できる世の中にしたいです。そんなを手伝える自分になりたいです。
- ・今年度は実際にエクスカーションを挟む取組で大変良い事だと思いました。
- ・ATが普段の日本人の旅行とどう違うのか考えるきっかけになり面白かった。
- ・今後の取り組みを進めていくうえで、とても参考になりました。ありがとうございました。

## 【エクスカーションに関する内容】

- ・コロナ状況が最悪の中、1日目でしたが参加出来良かったです。予想外の雪でしたが、北海道らしいきれいな森の雪景色が見られ、川村久恵さんのお話が聞け、心身共に有意義な時間でした。
- ・自分の自治体以外のAT素材を体験することができ、非常に参考になりました。

## 参加者のコメント

**【セミナーに関する内容】**

- ・ヨルダン大使の話がとても良かったです。
- ・当日のセミナー等は一部分をチラッと聞かせて頂いた程度なので、あまり詳しくお聞きすることができませんでしたが、法律の視点からみたガイド事業等についてのセミナーなど興味深いお話を聴くことができて良かったです。
- ・北海道のATに対する地元の熱意を形にしなが、中長期的に、ソフト・ハードのインフラ整備を行い、それを見守っていく責任についても考えさせられるセミナーであった。
- ・色々な人の話を聞いて勉強になったのはもちろんだが、刺激になった。さらに色々な人との出会いもあって良かった。
- ・一部分のみの参加となってしまったが、各方面の関係者が集まっており、ATに対する期待の高さを感じられる機会となった。
- ・コロナで開催が危ぶまれていた時期にも関わらず、宝島のみなさまご尽力いただきありがとうございます。講演会の内容がいいのももちろんですが、コロナで誰とも会えない中で、情報交換と繋がりが作れる機会はとても貴重でした。

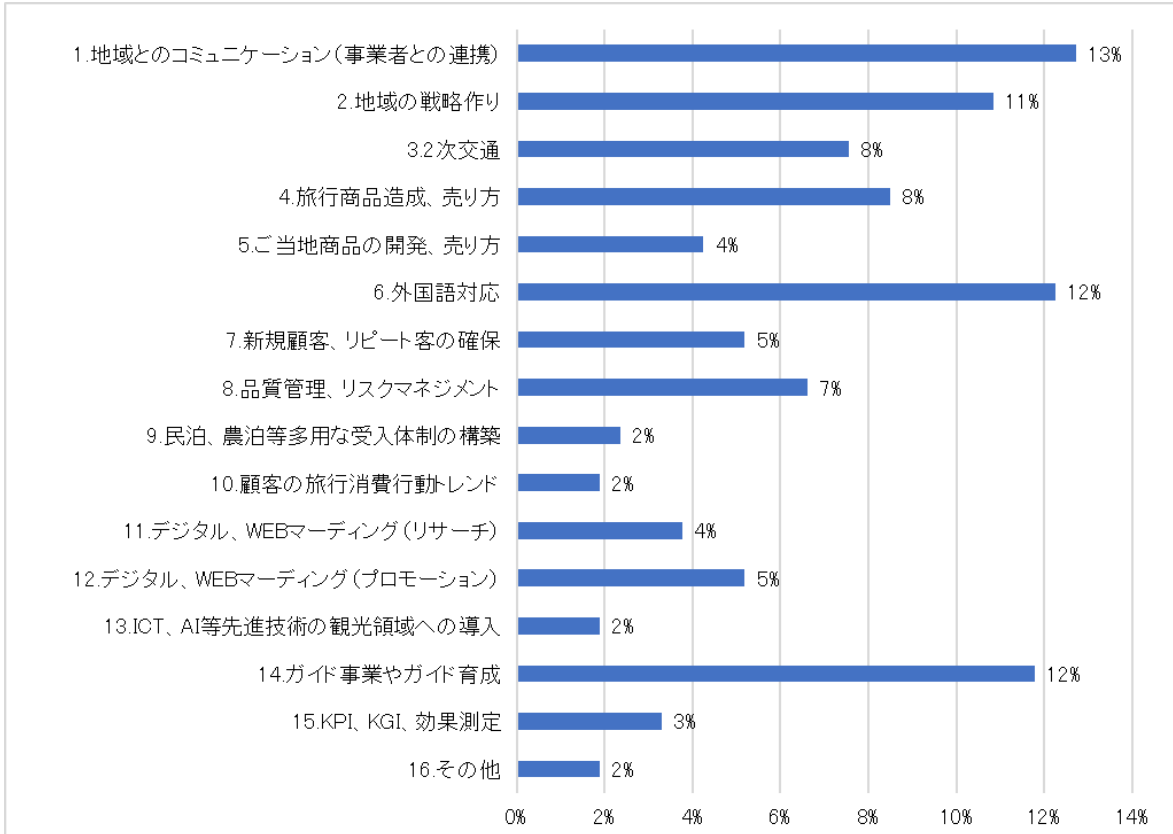
**【運営に関する内容】**

- ・大変有意義なミーティングに参加させていただきました。運営のメンバーにも感謝を申し上げます。
- ・コロナウイルス感染防止対策も完璧で安心して参加できました。スタッフの方々は大変ご苦労されたと思います。来年サミットが無事に開催される様に祈るばかりです。ありがとうございました！
- ・感染防止対策を行いながらの実施は工夫やリスクマネジメントなど様々な課題も多くありながら、無事に実施できたこと感謝申し上げます。お疲れ様でした。
- ・コロナで心配しつつでしたが、少しでも参加出来、良かったです。本来ならもっと大勢の参加で盛会でしたように残念。皆様のご準備、しきりに感謝いたします。
- ・感染拡大で開催を心配いたしましたが、主催者の皆様の多大なるご努力により開催され参加させていただきましたこと、本当に感謝いたしております。熱い想いがひしひしと伝わる素晴らしいミーティングでした。たくさん学びとご縁をいただきました。英語の勉強も合わせて、より一層頑張りたい気持ちにさせていただきました。どうもありがとうございました。
- ・コロナ感染拡大の中でのハンドリングは大変だったかと推察します。徹底した感染対策に感謝申し上げます。ふたつの基調講演のみの参加でしたが、大変参考になりました。今後もこのようなイベントは適宜実施いただければと思います。

**【今後の取組に関する内容】**

- ・限りなく現場に近い表現が多い感じがしたので良かったと思います。北海道でATを実践する場合他にどのような課題があるのか知りたい。また、法の整備も必要なのかも課題と感じました。
- ・今後このような会議に、事業者の実ガイドの方々がもっと参加していただけると、さらにアドベンチャートラベル全体のレベルや精度向上につながると感じました。
- ・アドベンチャートラベルについて考える非常に良い機会になったと考えております。内容も充実していて、今後もこういった関連団体・ステークホルダー向けのセミナーを定期的で開催できると非常に良いと思います。
- ・昼の時間に余裕があったほうがよかった。
- ・もっとネットワークを構築できる仕組みがあっても良かったと思う。
- ・場所は広くて、雰囲気真面目ですが、逆に楽しい気分になれません。楽しいトラベルの話なのに、政治的議論になった気がします。
- ・今後も開催予定がありましたらぜひお知らせください。
- ・ご苦労様でした。来年の本番には内容のあるDOA,PSAとなるよう期待しております。
- ・ATWS2021本番まで、このようなミーティングや、関係者が知り合い、ネットワークを上げられる機会を設けていただけたらと思います。
- ・今回のイベントでは、受地側の心構え、対応の仕方、商品の在り方等々が中心でしたが、より発地(市場)にスポットを当てたセミナーが実施されること期待します。

② イベント参加者 アンケート 地域の課題について(複数選択)



キーワードについて気になることなど

**【外国語対応】**

- ・今日も話にでましたが、博物館などで展示物に外国語のキャプションがないときは気になります。実際、外国人の方が不満にしているのに遭遇したことがあります。

**【地域とのコミュニケーション】**

- ・地域としての課題はたくさんあります。
- ・現在、少しずつですが地域との連携を進めているところです。
- ・自治体があまり個々に分断(独立)せず、面で集客につながる事業となることを検討したいです。

**【旅行商品造成、売り方】**

- ・大きなorこれまでの観光資源ばかりでなく 地方のユニークなものを掘り起こし自己満足では無く人と呼ばれ楽しんでもらえるような体験商品作りが増えて行くと良いしリピート客にもアピールできるのではないのでしょうか。
- ・アドベンチャートラベルに、クルーズ船で寄港して1日だけ地域を観光をするお客様を魅了して取り込んでいけるようにすると、もっと良いのではないかと思います。



## 【3】事業のまとめ

### 3-1 アンケート結果に基づく事業成果—量的改善(非ガイド層の態度変容)—

成果:現地参加者 全会場計 223名中 新規巻き込み者 23名(10.3%)

該当者数	会場名				
	白老会場	弟子屈会場	ニセコ会場	旭川会場	帯広会場
現地参加者	6名/41名中	6名/49名中	6名/44名中	4名/46名中	1名/43名中
オンライン参加者	1名/28名中	0名/15名中	0名/13名中	0名/25名中	0名/13名中

北海道5か所での地域イベント参加者の中からどれだけの人を巻き込むことができたか次の基準により選定した。

【基準】地域イベントの参加者で次のいずれにも該当しない参加者

- ①現役ガイド、通訳、②旅行者、③観光事業者(宿泊、飲食、交通、観光施設)(※)、④行政機関、観光関係団体

※文化施設は、これまで主体的に観光に関わっていないため含まない。

※物販施設は、体験メニューを提供しているなど観光に取り組んでいると思われる場合は含めた。

どの回答者もATについての具体的なイメージがわいており、中には既に持っていたイメージの観光を実践すべく、地域内の横の繋がりを深めた参加者もいた。地域ごとのネットワーキングイベントにおいて『非ガイド層』や『ATを掴み切れていないガイド層』を巻き込む」の95%が高評価、自由記述においても「農園に体験商品を導入するにあたって非常に参考になりました。」「横のネットワーク作りができた。」と回答があったことから、ATへの理解促進について効果があったと言え、量的改善が図られたと言える。

### 3-2 アンケート結果に基づく事業成果—ガイドの質的改善—

成果:質的改善が図られた現役ガイド 延べ38名(イベント参加ガイド総数)

■イベント1日目(エクスカッション)に参加した現役ガイド人数 17名(運営側を除く)

■イベント2日目に参加した現役ガイド人数 21名

事業目的である「質的改善」について、全道規模のイベントである「アドベンチャートラベル北海道ミーティング」における日帰りのエクスカッション、基調講演・セミナー及び会場でのネットワーキングにより改善が図られたかが改善の指標である。

アンケートにて、9割を超える参加者から高評価を得るとともに、自由記述において、「アドベンチャートラベルって何?くらの気持ちで参加しましたが、少し解ってきた気がします。」「運営側から見たガイドに必要な資質や考え方などが理解できました。」との記載があったことから、質的改善が図られたと言える。

付随成果:質的改善が図られた現役ガイド 延べ91名

■動画制作に参加した現役ガイド人数 28名

■地域ミーティングに参加した現役ガイド人数 51名

■冬季モニターツアーに参加した現役ガイド人数 12名(運営側を除く)

なお、成果には含めていないが、地域イベントにも現役ガイドが参加しており、他地域とのガイディング技術交流やネットワーキングを通じて質的改善が図られていることを付け加える。

### 3-3 事業総括

今回の事業は、地域の魅力を伝える「非ガイド層」や「ATをつかみ切れていない層」の巻き込みによる量的改善、ガイドスキルの向上及び幅広い関係者間での連携による質的改善の2つを目的として実施した。

まず、量的改善については、道内5カ所で開催したイベント「北海道アドベンチャートラベルミーティング」及びイベント開催地周辺でのエクスカーション作りと、冬季モニターツアーを通じて改善を図った。

結果は、一次産業従事者や博物館の職員などこれまで観光にあまり携わっていなかった多様な地域関係者23名を新たに巻き込むことができた。これは全参加者の10.3%であるが、イベントアンケートの自由記述に「農園に体験商品を導入するにあたって非常に参考になった」「漠然としていたプランが明確化できた」「漁業の新たな可能性を感じた」「今後自分も協力できることがあればやっていきたい」など、自身の取り組みと観光との関わり方が見えてきたという意見があったことから、今後も多様な関係者を巻き込んでいくことで、ガイドの量的改善に繋がることが確認できた。

質的改善については、札幌にて開催した全道イベント「アドベンチャートラベル北海道ミーティング」により、エクスカーションを通じた他地域関係者とのガイディング技術交流、北海道全域のネットワーク構築及び実践的な知識の習得により改善を図った。

ネットワーク構築については、道内全域から多様な関係者に参加してもらおうべく、農閑期及び休漁期であり観光客の入り込みも落ち着く11月に開催することとした結果、コロナウィルス感染拡大傾向の状況下にもかかわらず総勢104名、そのうち約2割にあたる21名の現役ガイドが参加することができた。

「素晴らしいミーティングでたくさんの学びとご縁をいただいた」「講演内容が良かったことに加えて、コロナで誰とも会えない中で、情報交換と繋がりが作れる機会はとても貴重だった」というアンケート意見、参加者からの「次の具体的な行動に繋がった」という声が示すとおり、多様な関係者が参加し十分にネットワーク構築を図ることができた。

実践的な知識の習得については、全道5カ所での地域イベントに講師として参加いただいた皆様による討論会、ヨルダントレイル開設の功労者である駐日ヨルダン・ハシェミット王国特命全権大使リーナ・アンナーブ閣下による基調講演をはじめ、スルーガイドの役割やガイドに必要な英会話など実用的な情報を提供し、「現場でのエピソードがとても役に立った」「運営側から見たガイドに必要な資質や考え方などが理解できた」「サステナブルは今後のツアー作りの最優先チェック事項にしたい」などのアンケートのコメントから、実用的な知識を得ていただけたと思う。

また、「他地域でどのような商品が販売されているのか知らない」という意見を踏まえ、ガイド同士の知見交流の場として全道イベント1日目に4本の日帰りエクスカーションを設定し、加えて5カ所での地域イベントをもとにした冬季モニターツアーも知見交流の場となった。アンケートの意見に「今後ATを進める上で気付きの多いツアーだった」「実体験が組み込まれておりとてもよい取り組みだった」との意見があったことから、普段見ることができない自分以外のガイディングを体験することによる、ガイド同士の技術及び知見の交流がガイドの質的向上に有効であることが確認できた。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による行動の制限がかかる中ではあったが、地域の関係者が連携するためのネットワーク作りが重要であることから、可能な限り参加者同士が顔を合わせられるようにイベントを実施し、「コロナウィルス感染拡大対策も完璧で、安心して参加できました」という声もいただき、その後も参加者からの感染者発生との連絡がないことから、コロナ禍におけるATWS開催に向けた運営についても知見を集積することができ、関係者及び参加者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げる。

以上から、新たな関係者の巻き込みがガイドの量的改善に繋がること、広範な関係者によるネットワーク構築、実体験を伴う交流及び実践に裏付けられた情報提供がガイドの質的改善に繋がることが確認できた。

その一方で、道内5カ所で実施したイベントのアンケートにて、現在課題と思っていることを聞いたところ、地域の関係者との連携との意見が一番多くあった。地域の魅力を創出し発信していくためには、北海道全域や地域内の様々な団体・組織が横断的に連携し、地域を面とらえ、魅力を再編集していく必要がある。

そのためには、当該事業で構築されたネットワークをもとに、より多様な人々が関わっていくことができる仕組みを整え、関係者がお互いの資源や商品について体感して知見を交流させることができる機会を継続的に創出していくことが重要である。

北海道が世界に通用するATの目的地となるためには、このような取り組みの継続が不可欠である。